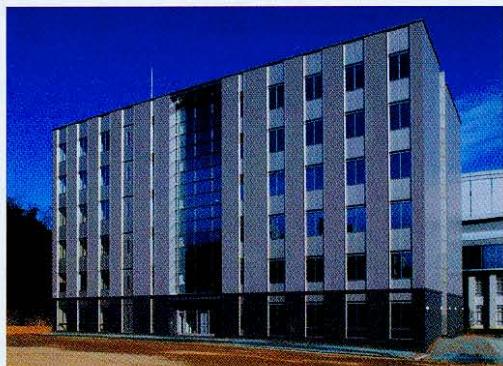




澪電

2004. 4 No. 25



情報系総合研究棟全景

目 次

会長ごあいさつ（中西 義郎）	1	留学生の声	17
講演会からの話題	2	会員の方々のご活躍	20
話題	4	教室情報	22
母校のニュース	5	卒業者・修了者氏名（就職先／進路）	24
研究室紹介	9	澪電会役員	26
退官された先生方の近況	11	同窓会だより	28
卒業生の近況	13	澪電会だより	31

大阪大学工学部電気系同窓会

澪電会

ホームページ：<http://www.osaka-u.info/~reidenkai/>

平成16年4月

平成16年度 大阪大学濬電会総会・懇親会ご案内

濬電会会长 中西 義郎

拝啓

陽春の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成16年度濬電会総会ならびに懇親会を下記の通り開催いたします。昨年は150名近くの卒業生や先生方が出席され大盛況でした。母校の先生方を交えて、先輩、後輩、同期生の方々が一堂に会して旧交を温めつつ、情報交換を行う絶好の機会でございます。また、総会・懇親会に合わせて日頃ご無沙汰の同期会を企画されるのもよろしいかと存じます。

昨年同様、本年も講演会を企画いたしました。最新の話題についてご講演いただく予定ですので、皆様お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

日 時：平成16年6月4日（金）午後5時～9時

会 場：新阪急ホテル（大阪市北区芝田1-1-35、Phone:06-6372-5101）

次 第：1. 講演会 17:00～18:30 会場「花の間」

「カーボンナノ材料の作製制御とその応用探索に向けて」

大阪大学大学院工学研究科 電子工学専攻 教授 尾浦憲治郎 先生

「21世紀を支える基盤技術－有機エレクトロニクスとフォトニック結晶－」

大阪大学大学院工学研究科 電子工学専攻 教授 吉野勝美 先生

2. 総 会 18:30～19:00 会場「花の間」

3. 懇親会 19:00～21:00 会場「紫の間」

会 費：学部卒業平成7年以降の方 7,000円

学部卒業平成6年以前の方 10,000円

会費は当日申し受けます。懇親会のみのご参加も歓迎いたします。

準備の都合上、出欠のご返事を同封のはがきにて、来る5月21日（金）までにお知らせ下さい。

表紙について

表紙の“濬電”は、熊谷信昭大阪大学元総長（通信・昭和28年旧制）の揮毫によるものです。写真は、吹田キャンパス内大学本部建物の南側に新設された情報系総合研究棟の全景です（平成16年3月17日竣工）。旧電気系研究室（濬電会の母体となる研究室）のうち、情報科学研究科情報システム工学専攻情報システム構成学講座（尾上研究室）、情報科学研究科情報ネットワーク学専攻インテリジェントネットワーキング講座（村上研究室）、および、情報科学研究科マルチメディア工学専攻マルチメディアデータ工学講座（西尾研究室）の3研究室が入居しています。

会長ごあいさつ

濬電会会长 中西 義郎
(通信・昭27)



会員の皆様には、お元気にご活躍のことと拝察し、お慶び申し上げます。

濬電会本年度事業につきましては、総会でご承認いただきました計画を順調に進めさせていただいており、新しい名簿も昨年中にお手元に届けさせていただきました。役員ならびに事務局のご尽力と会員皆様方のご協力に心から謝意を表させていただきます。

また、東京支部、北陸支部、東海支部、九州支部、中国支部の集りに参加させていただきましたが、各支部とも、支部の充実に向け、支部長、幹事をはじめ会員の方々になみなみならぬご努力をいただいておりますこと、まことに心強く、ありがとうございます。

本年4月に母校大阪大学も国立大学法人大阪大学として新たなスタートを切られました。今年の干支は“甲申”で、この年には古い秩序が壊れ、新しい秩序への胎動が姿を現すと言われております。古人が言う“干支に聞け”とは意味あいが違うとは思いますが、何か一脈通ずるところがあるようにも思われます。

この大きな変革に向けて、本会会員でもあります総長宮原秀夫先生（通信工学科 昭和42年卒業）は、年頭所感（大阪大学工業会誌テクノネット04/1）で、“スムーズな移行を実現し、多少の時間をかけてでも大阪大学の教育研究の遂行に有意義な法人化像というものを追求していきたい”と抱負を表明されており、大阪大学の独自性を打ち出されるものと期待させていただいております。先生のリーダーシップを發揮されてのご活躍をお祈りいたしたいと思います。

電気系の学科、専攻も、新たな体制のもとで、研究教育活動の刷新をはかり、時代の流れ-とりわけ21世紀の技術のありよう-を見すえての研究、教育を推進されておられます。

濬電会としても、母校の変革のお役に立てればと思っておりますが、会員の皆様方には、母校とのかかわりをより密にし、母校の動きを力強く後援していただきたいと願っております。

ところで、わが国の経済、景気動向ですが、2月13日内閣府発表の昨年12月の法人企業動向調査によれば、企業経営者による03年10～12月期の国内景気に対する判断指数が前期比11ポイント上昇のプラス17と3期連続で改善し、96年4～6月期以来7年ぶりの高水準を記録したことですし、また、2月18日内閣府発表の国民所得統計速報によれば、03年10～12月期の国内総生産（GDP、季節調整値）は実質で前期比1.7%増、年率換算では7.0%増で、90年4～6月期以来13年ぶりの高成長を記録したとのことです。

成長率を押し上げたのは、世界経済の強さを背景にした設備投資と輸出の伸び、それにデジタル家電を中心とした個人消費の堅調にあることですが、会員の皆様方のご努力が寄与しているものと推察しております。ただし、この高い成長率にも、外需頼みである、地域間、業種間、企業間で大きな格差がある、名目成長率は低調である、といった懸念が指摘されており、明るい兆しが見えはじめているものの、実感できる本格的な回復にはいたっていないというのが実情ではないでしょうか。

構造改革のさらなる加速が必要ですし、政治、社会の直面している課題とも重なって、依然として厳しい状況が続くものと思います。

どのような状況であれ、わが国の活力の源泉は技術にあり、世界を相手にできる技術力こそが将来を切り開くと思っております。会員の皆様方には、それぞれのお立場で、明日に向けての頑張りを基調に、わが国の技術力の高度化、高質化に挑戦下さいますよう願っております。

最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

なお、近く任を終えることになります。在任中、微力でしたが、皆様方からご協力、ご支援いただきましたことに、心より厚くお礼申し上げます。

講演会からの話題

電磁波の人体への影響とその定量的評価について

大阪大学 名誉教授
塩澤俊之
(通信・昭39・M41・D44)



最近、電磁波の人体に与える潜在的な影響が注目されているが、昨年、世界保健機関（WHO）は「電磁波：発ガンの可能性あり」という警告を発した。この警告は、主として、「疫学」と呼ばれる統計調査の結果に基づいたものである。我々の周りには多くの電磁波が飛び交っているが、電磁波源としてすぐに頭をよぎるのは、近年急速に普及した携帯電話であろうか。しかしながら、多くの発ガン要因がある現代社会において、電磁波による寄与のみを取り出して評価することが極めて困難であることは容易に想像がつくだろう。それに加えて、過去の研究の一部には、電磁波を適正に取り扱っていなかった医学者の実験結果、あるいは工学者の非現実的な解析結果が一人歩きをしていた。そのため、この種の研究結果の妥当性を検証するのに多大な労力が費やされてきたのが実情である。

このような事情を背景にして、国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）あるいは米国電気電子学会（IEEE）など国際的な公的機関が電磁波曝露に対する安全基準の策定を行っている。このような安全基準は、人体防護の観点からは必要不可欠である反面、抑制的に定めすぎると産業の発展を阻害する可能性があるという面もあり、その妥当性を科学的に裏づけることが要求されている。現在、携帯電話で用いられているマイクロ波帯においては、比吸収率と呼ばれる単位質量当たりに吸収される電力がそれらの安全基準の指標として用いられている。これは、一般に、高周波電磁界の生体への影響は熱作用が支配的であると考えられており、この見解を否定するような報告がなされていないためである。

しかしながら、安全基準で指標として用いられる吸

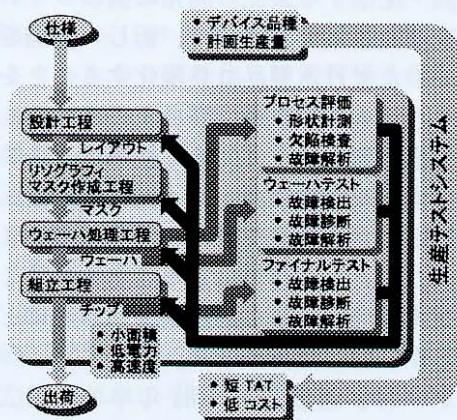
取電力とそれにより生体に直接影響を与えるとされる温度上昇の定量的関係は未だ十分解明されていない。筆者らのグループはその点にいち早く着目し、マイクロ波帯電磁波により生じる電力吸収と温度上昇の相関について考察を行ってきた。具体的なアプローチの方法としては、MRI画像から得られた解剖学的に厳密な人体頭部のモデルを1辺が2mm程度の立方体で細かく分割し、それぞれの微小立方体にそれに対応する頭部の部位の物質定数を付与する。このようにして作成された人体頭部の数値モデルに電磁波を照射し、人体頭部に吸収される電力とそれによって生ずる温度上昇を計算機シミュレーションによって求める。このような方法によって携帯電話使用時に、人体頭部に吸収される電力およびそれによって生ずる脳内温度上昇の相関を定量的に評価した。また、血流がなく、皮膚に防護されていないためマイクロ波加熱の影響が最も懸念されている眼球に着目し、同様の議論を行った。とりわけ、眼球は防護指針策定の際に基準とされる器官である。これらの考察により、両者の間には良い相関が見られることを明らかにするとともに、その不確定性に關しても言及した。これらの一連の研究は、欧州（特に英国）あるいはIEEEの委員会において、電磁波曝露に対する人体防護指針を策定する際に参考されたり、審議の対象となったりしており、安全基準の国際標準化に大きく貢献している。

一方、この種の研究と歩調を合わせるように、人体のアンテナ放射特性に与える影響も明らかになってきた。主な結果としては、アンテナから放射される電磁波の大半は人体に吸収され、放射指向性が大きく歪むことがわかっている。そこで、筆者らのグループでは、先に作成した厳密な人体頭部モデルを用いてアンテナを設計し、その特性を最適化することにより、従来に比べて頭部に吸収される電力が低減され、放射効率が改善されるような構造のアンテナを提案している。従来の携帯電話では、若者をターゲットとし、デザイン、コンテンツが重視してきたが、高齢化社会へ進むこれから時代においては、「安心、安全」がキーワードとなり、筆者らの提案はその方向に合致したものであると考えられる。

講演会からの話題

LSI テスティング 昨日・今日・明日

大阪大学
大学院情報科学研究科
情報システム工学専攻 教授
藤岡 弘
(通信・昭 40・M42・D45)



LSI は、図に示すように仕様が決定されてから、設計工程、リソグラフィマスク作成工程、製造ラインでのウェーハ処理工程、組立工程を経て出荷される。その間で様々な評価・テストが実施され、その内容に応じて様々な検査装置が用いられる。ウェーハ処理が進行中の各段階におけるプロセス評価、完成ウェーハに対するウェーハテスト、ウェーハから切り離されパッケージにマウントされたチップに対するファイナルテストを総称して LSI テスティングと呼ぶ。

講演では故障診断の代表的装置である EB テスターの開発において、大阪大学を中心とする我が国の研究機関や半導体産業界の研究者達が互いに知恵を出し合い、世界に亘して重要な役割を果たしてきた経緯を、新聞や NHK の科学番組に取り上げられた例などを挙げながらお話しした。

LSI は集積度が増し、機能とデバイス構造が複雑化するにつれて、設計、製造、評価・テストの各工程は相互に複雑に関連し合い、更なる高集積化・高機能化をはかり、あるいは低消費電力化・小面積化、短 TAT (短期間開発)・低コスト化を促進するためには、もは

や今までのように各工程を個々別々に考えるのではなく、仕様が決定されてから出荷に至る一連の工程を一つのシステムとしてとらえ、統合的に考えなければならない状況になってきている。このことについて講演の後半でお話しした。図では、右端にこの状況を示している。

特に、最近注目されている、複数の機能を一つのチップ上に集積した、いわゆる SoC (System on a Chip) 時代においては、生産形態も大量少品種生産から少量多品種生産に移行し、これに伴って品種と生産量の変動に迅速に対応できる生産テストシステムが必須となる。言い換えれば、社会の多様なニーズに応じた、より高機能な LSI を、より短い生産サイクルで、より安価に、より信頼性高く、より早く市場に出現させる生産テスト戦略が要求される。このためには、面積、消費電力、動作速度に関する要求を満足させながらも、歩留まりを如何に早く、高く立ち上げ、これを維持するかが重要である。そこで、製造・検査装置を有機的に統合運用する戦略、すなわちトータルシステムソリューションが求められている。

例えば、ウェーハ処理工程のオンライン検査システムを構築する場合を考える。まずデバイス品種や計画生産量などデバイスパラメータと製造ラインの主要パラメータが与えられる。このとき、使用する検査装置の性能（感度、スループット、価格）は勿論であるが、どの様な性能の検査装置を何台、対象とするウェーハ処理工程のどの段階にどのように配置するか、また各検査装置のウェーハ抜き取り頻度をどの様に設定するか、異常判定条件をどの様に設定するか、などを含めてトータルに評価することによって、初めてその製造ラインの生産性を評価出来る。当然ながら、品種と生産量が変わればベストソリューションが変わってくる。このようなトータルシステムソリューションの考え方が今後益々重要になる。

講演でも最後に触れたが、LSI テスティングシンポジウムが毎年、秋に大阪で開催されている。参加者は毎年増え続け、平成 15 年度は 370 名を越す研究者・技術者が参加し、三日間に亘って活発な討論が繰り広げられた。このことは益々複雑化する LSI に対応できる新しいテスティング手法は勿論、トータルシステムソリューションが求められている半導体産業界の現況を物語っているのではなかろうか。

話題

カノープス株式会社
竹本 晃
(通信・昭 54・M56)



ヒトは直立2足歩行をする動物であり、現在そのような特性を持つ生物種は、我々ホモ・サピエンスだけです。しかしひには、化石が発見されているだけでも過去に20近い種が存在したそうです。それらは我々につながる一本の進化の道筋なのではなく、進化の過程でさまざまに分岐したもので、複数の種が共存していた時期もあるそうです。それらの多くは、我々よりもはるかに体が頑丈で、運動能力に優れていたと推定されています。例えば3～4万年前のヨーロッパでは、我々の直接の祖先であるクロマニヨン人と、別種であるネアンデルタール人との共存していたとされています。ネアンデルタール人の骨格は太く、筋肉が隆々であったと考えられます。

しかし、最終的には、我々ホモ・サピエンス以外の種は全て絶滅してゆきました。その理由はさまざま、幸運な偶然もあったでしょうが、とりわけ思考能力の違いが明暗を分けたと考えられます。クロマニヨン人は知能に優れて手先が器用で、薄く剥離することが可能な石材で剃刀のような鋭い石器を大量生産し、また骨製の縫い針で獣皮を縫い合わせて作った衣服で寒さをしのぐこともできました。言語によるコミュニケーション能力にも優れ、それらの素材を交易によって遠くの地方までもたらしています。つまり、ひとたび森林での樹上生活を捨てた以上は、中途半端な物理的「強さ」に未練を残したのでは生き残ることはできず、「知恵」によって生活を守る新しいスタイルに徹する必要があった。そして長い年月の末にそれに成功した我々の祖先だけが生き延び、繁栄することができた、ということでしょう。

その「知恵」の極致であり、またこれからもさらに発展すると期待できるもののひとつが、私たちのホームグラウンドである、電気・電子・通信・情報の技術ではないでしょうか。私が読んだ人類史の本の中に、

現在はパソコンなどの便利な道具があるが、道具のルーツをつきつめてゆくと、石器にゆきあたる、という記述があり、逆をたどれば、私たちが勉強し研究している技術が、人類の「知恵」のひとつの到達点である、との思いを持ちました。と同時に、進むならば、徹底的に進まなければならない。過去への未練を引きずっていたのでは、滅びるしかない、という厳しさも、現在の技術革新に通じるものがあります。思わず身ぶるいしてしまうような、厳しい一面です。

私はカノープスという会社で、パソコンを応用して映像を録画・配信する製品の開発に携わっています。実践的研究開発企業を標榜して、新しい技術を多くの人に使っていただける製品に具現化することを使命としています。先人の知恵を学び、工夫を加え、世の中で実際に役立つ形に仕上げてゆく仕事は、まことに楽しいものです。その中には、電子回路・通信・情報処理・映像など、さまざまな技術が使われていますが、大学で学んだことが直接役に立つこともあるし、大学で学んだ基本概念が、新しい技術を学ぶ際にどれだけ助けになるか、計り知れません。

カノープスは、通信工学科81年卒の山田広司氏によって設立された会社です。私も同時期に同じ研究室におり、縁を得ることができたというめぐり合わせを持っています。ヒトの発祥の地はアフリカであり、その理由として、多様な生態を受け入れができる懐の広さ、エネルギーに満ちた豊かな環境と、一方で樹上生活にしがみつくことを許さなかった厳しくダイナミックな気象変動が挙げられます。これらは、そのまま私たちを育んでいただいた大阪大学の土壤に重なるような気がします。

そのような場に身を置くことができた幸運を喜び、諸先生方、先輩方、同窓の友人達に感謝しないわけにはいきません。皆様にお礼申し上げると同時に、我々の唯一の拠り所である「知恵」をさらに深めてゆくことができる場としての母校が、ますます発展することを祈念して止みません。

母校のニュース

大阪大学総長に宮原秀夫先生がご就任

西尾章治郎
(情報科学研究科長)

通信工学科昭和42年卒業の宮原秀夫先生が、昨年、8月26日に大阪大学第15代総長に就任されました。電気会関係者にとっては、熊谷信昭先生が第12代総長に就任されて以来の慶事であり、皆様と共に喜びを分かちたいと思います。

宮原総長は、インターネットに代表されるコンピュータネットワークのモデル化と性能評価を学問領域として確立され、それを基礎理論としたネットワーク設計手法を導入し、コンピュータネットワークの実用化に大きな道を開きました。その業績に対し、エリクソン・テレコミュニケーション・アワードをはじめ多数の受賞をなされています。

通信工学専攻で学位取得後、京都大学工学部助手、本学基礎工学部教授、基礎工学研究科長などを務めになり、さらには、平成14年度開設の情報科学研究科の初代研究科長に就任されるなど、学の内外でさまざまな要職を歴任されてこられました。岸本忠三前総長のもとでは総長補佐を務められ、平成15年度からは、法人化に向けての総合計画準備室長として、法人化対応の陣頭指揮を執られました。

先般11月28日には、総長就任祝賀会が、リーガロイヤルホテルにて400名を超える参加者を得て盛大に開催され、参加者一同から新たな門出に対するお祝いと励ましの言葉が贈られました。当日は、宮原先生の教授としての最終講義も行われました。

宮原総長は、本年度から国立大学法人として大きな変革期を迎える大阪大学の舵取り役として、ますます重責を負われることになります。その重要な時期を控えて、先頃刊行された「阪大Now」(No. 68 2004.1号外)において、宮原総長は「総長年頭所感－法人化に対する私の所感－」を公にされ、組織運営、評価及び経営に対する基本的な考え方、さらには、学生も含めた大阪大学構成員にとっての法人化の意義など、あらゆる面に関する所感を明確に提示されました。

特にこのような大変な時期だけに、相当の激務が予想されますが、宮原総長にはご健康には十分にご留意

いただき、職務を全うされることを祈念し、報告とさせていただきます。

超伝導フォトニクス研究センターの建物が完成

辻 豊一郎 (電気・昭41・M43)
超伝導フォトニクス研究センター長
(電気工学専攻・教授)

超伝導フォトニクス研究センターは発足以来すでに4年が経過しました。萩行教授、斗内教授を中心としたフルスタッフ6名を中心に極めて活発な研究を行っています。本センターの目的はその名称の通り超伝導とフォトニクスの融合ということですが、最近では研究の比重がテラヘルツ波の応用面へ移ってきています。萩行教授の研究室では半導体からの高強度広帯域のテラヘルツ波の発生と高速テラヘルツイメージング、ならびに、テラヘルツ分光法のバイオマテリアルやフォトニック結晶評価への応用、セキュリティ応用(封筒中の爆薬発見)などの研究を行なっています。斗内教授の研究室では、超高速超伝導光インタフェイスなどテラヘルツ帯での利用を目指した強相関フォトニック材料・デバイスの開発から、それらの極限高速状態における新しい物理現象の探求、およびそのような状態を観測するための研究システム開発などを行っています。

この春にはこれまでの念願であった建物の建設が完了し、面積が約2倍となります。建物は発足当初から要求していたものですが、約2年前、当時の白川功工



学研究科長のご尽力により、工学部の創造工学センターと、工学研究科付属超精密科学研究センターの2つと合わせて、これまでに例の少ない3センターの合築という方法で実現の運びとなりました。土地の有効利用を図る必要があることは誰しも認めるところで、規模の小さな研究センターが建物を別々に建設するのは非合理的ですが、これまで合築ということはなかなか難しかったのです。テニスを楽しんでおられた方には大変申し訳ありませんが、共同実験棟の隣にあったテニスコートを3面分使用して建設されました。地上5階地下1階建ての大変立派な建物（写真）で、1、2階は超精密科学研究センターでウルトラクリーンルーム、3階は超伝導フォトニクス研究センター、4、5階は創造工学センターとなっています。吹田キャンパスに来られたら是非お立ち寄り下さるようお待ちしています。

知的財産本部の設置と产学官連携の推進

村上 孝三（電子・昭46・M48）

大阪大学先端科学イノベーションセンター長
(情報科学研究科情報ネットワーク学専攻・教授)

本年4月より大学における発明は原則大学帰属に移行します。これまで阪大の年間約300件の発明は、1割が国有で9割が個人有でした。個人有の発明は大部分が企業に譲渡され企業から出願されていたようですが有効な活用に至った例は稀です。知の時代を迎え、知の創出と活用が課題となっており、そのため、特に大学の研究成果を産業に結びつけるための仕組みの構築が急ピッチで進められており、大学知的財産本部整備事業は大きな施策の一つとなっています。87グループの大学が応募し、阪大を含む34グループの大学が採択され、組織体制とポリシー・規定の整備を進めてきました。教職員は、研究発表前に発明の届出をすることになります。知的財産本部の評価を経て発明委員会で大学帰属が決定されます。大学が承継しないものは個人に返します。大学が承継した発明は、企業との研究協力によるものは企業と共同出願し、そうでないものはTLOに委託したり、大学自身が出願します。大学の知的財産を実施する場合は実施料を徴収します。実施料の収益はその1/3が発明者に、また発明者とその研究室に50%が配分され、残りが大学の運営費に回されます。発明の評価には、TLOを含む外部の専門家にも参加してもらい、速やかな出願処理を目指します。プロジェクト研究に従事させる学生、院生と

は雇用契約を結び、それ以外の学生とは発明がされた時点で個別契約を結びます。守秘の徹底や知的財産の責任ある管理実施体制を整備します。

知的財産の創出と活用には、長期的視点に立った自由で深い研究・教育という大学本来の使命を一層活性化させることが重要で、さらに成果の社会還元の仕組みの構築とそのための产学連携を積極的に推進する必要があります。

阪大では、4月の法人化のスタートにあたり、全学的な产学連携組織である、先端科学技術共同研究センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ、先導的研究オープンセンターを統合して先端科学イノベーションセンターを新設しました。知的財産本部とともに大阪大学研究推進室配下の組織として、両者の緊密な連携協力により、知的創造サイクルの確立に向けてスタートしました。TLO（大阪TLO、関西TLO等）や特定非営利活動法人おおさか大学企業支援機構、有限投資組合阪大イノベーションファンドも产学連携で設立いただき、これら外部組織との連携により活気ある大学を目指しています。

一度是非、<http://www.crcast.osaka-u.ac.jp>を訪問ください。

森永規彦先生退官記念祝賀会

工学研究科通信工学専攻の森永規彦先生は、平成15年3月31日をもって停年退官され、大阪大学名誉教授となられました。先生のご功績を称えるとともに、多年にわたるご指導に対する感謝の気持ちを込めて、先生縁の約300名の方々のご列席のもとに、平成15年5月10日、リーガロイヤルホテル「ロイヤルホール」において「森永規彦先生退官記念祝賀会」が開催されました。

祝賀会は、森永先生が懇意にされている方がメンバーである女性コーラスグループのコーラスをバックにした森永先生ご夫妻のご入場で始まり、通信工学専攻馬場口登教授の司会で進められました。まず祝賀会実行委員長である通信工学専攻塩澤俊之教授から、森永先生のお人柄などのお話を交えてご略歴ならびにご業績の紹介がありました。引き続き、大阪大学元総長・名誉教授、熊谷信昭先生、東京大学名誉教授・国立情報学研究所教授、羽鳥光俊先生、総務省大臣官房技術総括審議官、石原秀昭様、西日本電信電話株式会社代表取締役社長、上野至大様、シャープ株式会社相談役・前社長、辻晴雄様、大阪大学摂南大学総長・理事長、東松孝臣先生から、丁重なご祝辞を頂きました。その

後、森永先生の恩師である大阪大学名誉教授、姫路獨協大学名誉教授、滑川敏彦先生のご発生で乾杯が行われ、その後暫しの間、森永先生ご夫妻を囲んでなごやかな歓談が続きました。祝賀会の終わりには、森永先生の秘書を勤められた増永雅子さんのアルパ（バラグアイハープ）の演奏、卒業生を代表した小牧省三大阪大学教授よりのご祝辞を頂き、また、祝賀会からの記念品贈呈、花束贈呈があった後、森永先生より、参加者の方々に対して、ご挨拶がありました。ご挨拶の中で、森永先生は、ご来賓の方々を初めとする祝賀会に参加された方々への御礼を述べられると共に、「革命」がキーワードとなっていた大学紛争の時代から、「IT革命」というキーワードでワイヤレス技術が世の中の脚光を浴びるようになった今日までの大学生活を振り返られました。さらに、青柳研究室、滑川研究室と続いてきた研究室の運営を全うできたことを回顧され、その間、いろいろと支えていただいた方々への感謝の言葉を述べられました。その後、名残惜しい雰囲気の中で、先生ご夫妻は参会者の盛大な拍手に送られて退場され、河崎善一郎教授による閉会の辞をもって祝賀会は盛会のうちに散会しました。

（三瓶政一（教官）記）

白川功先生退官記念祝賀会

情報科学研究科 情報システム工学専攻情報システム構成学講座教授を平成15年3月末に退官された白川功先生の退官記念祝賀会が、同年7月4日（金）にリーガロイヤルホテル光琳の間で開催されました。祝賀会は白川先生ご夫妻のご臨席のもと、電気系/本学関係者、学界/産業界のご友人、門下生など500名を越える出席者で、終始なごやかな雰囲気で行われました。

情報ネットワーク学専攻 村上孝三教授の司会で開会され、まず主催者を代表して実行委員長の情報システム工学専攻 藤岡弘教授から挨拶があり、白川先生のご経歴やご功績が紹介されました。続いて、大阪大学元総長 熊谷信昭先生、大阪大学総長（当時）岸本忠三先生、情報科学研究科長（当時、現総長）宮原秀夫先生からご祝辞を頂きました。さらに、各種学会を通じて永年の友人である中央大学教授 篠田庄司先生、学生時代からのご友人であるシャープ株式会社副社長 三坂重雄氏からもお祝いのスピーチがありました。その後、白川先生の恩師であり、研究室配属以来約40年にわたりご指導頂いている、大阪大学名誉教授 尾崎

弘先生のご発声のもと乾杯が行われ、歓談となりました。

祝賀会では、多数の参加者が歓談の和を広げる中、白川先生は出席者と楽しく談笑されながら、想い出を語りあわれました。その後、白川先生が永年応援団部長をつとめておられた大阪大学応援団のメンバーの方々から、先生のますますのご活躍を祈念してエールと応援歌が贈られました。大盛況となった祝賀会は、瞬く間に2時間余を費やしてしまい、記念品贈呈、花束贈呈が行われた後、白川先生から御礼のご挨拶があり、満場拍手の中、先生ご夫妻がご退場されました。

最後に、情報システム工学専攻長 菊野亨教授から閉会の挨拶があり、会場出口では、白川先生ご夫妻が出席者一人一人に丁寧にご挨拶され、祝賀会はつつがなく終了しました。

（尾上孝雄（電子・平3）記）

中山龍彦先生退官記念祝賀会

昨年8月1日、前レーザー核融合研究センター長中山龍彦先生の退官記念事業として記念講演会並びに記念祝賀会が、大阪中ノ島リーガロイヤルホテルのロイヤルホール（記念講演会）、光琳の間（記念祝賀会）にて盛大に行われました。記念講演会では、核融合科学研究所の本修所長と日本原子力研究所の加藤義章理事から御講演をいただきました。講演会の終了後、会場をロイヤルホールから光琳の間に移して記念祝賀会が行われ、中山先生ご夫妻を囲み、270名の参加者が思い出深い宴をともにいたしました。中山先生ご夫妻のご入場後、弦楽演奏に続き、大阪大学総長（祝賀会開催時）の岸本忠三氏からご祝辞をいただき、引き続き、豊田浩一レーザー学会会長、高村秀一プラズマ・核融合学会会長、そして古くからのご友人でもいらっしゃる岸田哲二関西電力株式会社代表取締役副社長からご祝辞をいただきました。実験の名手だった中山先生を評して「中山マジック」なる言葉も飛び出した祝辞の後、中山千代衛先生の音頭で乾杯し、盛大な宴が始まりました。祝宴では電気工学科の先生方をはじめ、プラズマ・核融合研究関係の方々、レーザー核融合研究センター職員、学生、OBたちが談笑し、「楽しく研究をやってこそ良い成果が生まれる」という中山先生の持論を地でいくような楽しい祝賀会となりました。

卒業生並びに研究室の現役、OB一同、今後の中山龍彦先生のますますの御健勝をお祈りする次第です。

（畠地 宏（電気・D昭54）記）

塩澤俊之教授最終講義

通信工学専攻教授塩澤俊之先生は、平成16年3月31日をもって定年退官されることとなりました。ご退官を迎えるにあたり、最終講義が平成16年2月5日（木）午後3時より電気系メモリアルホールにて行われました。当日は、学内の学生や先生方のみならず、卒業生等学外からも多数聴講に来られました。通信工学専攻長の小牧省三教授より塩澤先生のご略歴が紹介された後、「電磁波工学とともに40年」と題する講義が始まりました。

先生はまず、電磁波工学と出会いきっかけとなった出来事として、大学学部時代に受講された熊谷信昭元総長（当時、助教授）による電気磁気学の講義について述べされました。講義の教科書として使われた書籍

Electromagnetic Fields, Energy and Forces の章立てを紹介され、基本法則であるマクスウェルの方程式の説明から始まる斬新な構成に感銘を受けたことを述べられました。また、学部4年生および修士課程在籍中には、この教科書を始めとする電気磁気学に関する多くの名著を原著で次々と読み破り、そのことが後の研究活動の基礎となつたことを述懐されました。

次いで先生は、相対論的電磁理論と電磁波の人体への影響評価の2つのトピックスを取り上げられ、ご自身の研究成果を噛み碎いた言葉でご説明して下さいました。相対論的電磁理論に関しては、AINSHUTAINの特殊相対性理論に基づく慣性系における電磁理論を紹介した後、先生独自のご研究である回転系における電磁理論をわかりやすく論じられました。また、運動する荷電粒子からの種々の電磁放射現象に関する研究成果の一端をご紹介されました。

電磁波の人体への影響評価については、例えば携帯電話などに用いられているマイクロ波が生体にどのような影響を与えるかを考える際には、定量的なデータをもとにした客観的な影響評価が極めて重要であることを述べられました。具体的に、人体頭部と眼球に対する数値モデルに電磁波を照射したときの温度上昇を計算機シミュレーションを用いて求めることができるなどを詳述され、これらの研究が電磁波暴露に対する人体の防護指針の国際標準化に大きく貢献していることをご紹介されました。また、同様の計算機シミュレーションを用いた携帯電話のアンテナ設計についても触れられました。

これらのご自身の研究成果の紹介を通して、先生は、学問的な興味に根ざした基礎的な研究と教育の重要性を説かれました。そして最後に、そのような教育およ

び研究の姿勢を持ち続けることを可能にした大阪大学での生活に感謝の言葉を述べられ、講義を終えられました。最後に、先生の永年のご指導に感謝の意を込めた花束贈呈が研究室の原千登勢秘書から行われ、大きな拍手に包まれ、先生はご退席されました。

なお、最終講義の後、別室で塩澤先生を囲んだパーティーが開かれ、約2時間にわたって懇談が行われました。

（松本正行（通信・昭57）記）

塩澤俊之先生退官記念祝賀会

通信工学専攻教授 塩澤俊之先生の退官記念祝賀会が、平成16年3月19日（金）午後6時から、ホテル阪急インターナショナル瑞鳥の間において開催されました。当日は、電気系教職員、ご友人、ならびに研究室卒業生を中心とする150余名が出席し、先生のご退官をお祝いしました。

祝賀会は通信工学専攻馬場口登教授の司会のもとで進められ、まず、記念祝賀会実行委員長の通信工学専攻長 小牧省三教授から塩澤先生のご略歴やご功績が紹介されました。続いて、工学研究科長馬越佑吉先生、電子情報エネルギー工学科長森田清三先生、住友電気工業株式会社常務取締役吉田健一様、ならびに通信工学専攻河崎善一郎教授から祝辞が述べられました。その後、研究室で以前秘書を勤められた中山美津子様から、バイオリン演奏・川合祐子様、ピアノ伴奏・中井由貴子様が紹介され、お2人によるミニコンサートが始まりました。お2人はご活躍中の新進の演奏家で、エルガー「愛のあいさつ」他2曲の素晴らしい音色に出席者一同聴き入りました。演奏後、情報科学研究科教授 藤岡弘先生のご発声で乾杯が行われ、歓談に移りました。

祝賀会は着席ディナー形式の華やかな雰囲気の中で進行しました。会場のあちこちで、塩澤先生ご夫妻を囲んだ歓談の輪が広がり、なごやかに時が過ぎました。祝賀会も終わりに近づいた頃、中山美津子様と現在の秘書である原千登勢様からご夫妻に花束が贈呈されました。塩澤先生から出席者へのお礼の言葉が述べられた後、盛大な拍手に送られてご夫妻が退席され、最後に電子情報エネルギー工学専攻北山研一教授から閉会挨拶があり、会は盛会のうちに開きました。

（松本正行（通信・昭57）記）

研究室紹介

電気工学専攻 システム・電力工学講座 電力工学領域



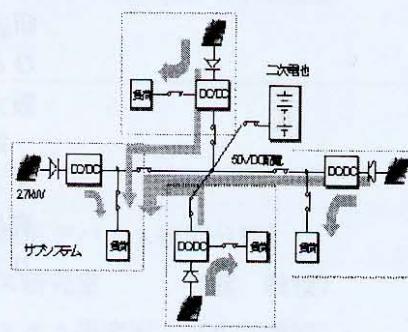
教授 伊瀬 敏史

本領域の前身である電気工学第一講座は1929（昭和4）年、大阪大学工学部の前身である大阪工業大学創設時より設置され初期の一時期を除き一貫して電力工学の講義と研究を中心としてきた。当初、大竹太郎教授、青柳榮司教授が担当したが、1934年から1956年まで七里義雄教授、ついで1972年まで山村豊教授、1974年から1985年まで木下仁志教授、1988年から2001年まで松浦虔士教授が歴代担当し、2002年より伊瀬敏史が担当教授となり、現在に至っている。

研究室の正式名称は大学院重点化による改組により標記のように改められている。現在の研究室の陣容は、教授：伊瀬敏史、助教授：三浦友史、学内講師：松原一郎、特任教授：打田良平、事務補佐員1名の教職員スタッフと、外国人客員研究員1名、大学院博士後期課程3名をはじめとする学生約20名の総勢25名余である。

電力工学に関連して近年目覚しく発展した技術がパワーエレクトロニクスである。地球環境問題から太陽光・風力などの自然エネルギー発電やガスエンジン・マイクロガスタービンなどのコージェネレーション機能を有する分散電源、および新型二次電池などの電力貯蔵技術が電力システムの中で使用され始めており、これらには系統との連系のためにインバータが不可欠である。また、電力自由化の流れの中で需要家の視点に立った新しい電力供給システムの構築や基幹電力系統においては電力潮流の自由な制御のために、電力品質や潮流を制御できる技術としてパワーエレクトロニクスがこれからの電力システムの中では極めて重要である。また、一方では国家プロジェクトで銳意進められている超伝導の電力応用の視点も省エネルギー上記の地球環境問題および電力自由化の流れの中で忘れてはならない。大阪大学では1980年に設置された工学部附属超電導工学実験センター（現、超伝導フォトニクス研究センター）で故村上吉繁名誉教授を中心に小生とともに研究を推進してきた超伝導電力貯蔵の研究の歴史がありこれに関しても実用化に至る研究を進めなければならない。本研究室ではこれらの要求に沿うために次のような課題に関する研究に挑戦し、関連する学問分野の教育を行っている。

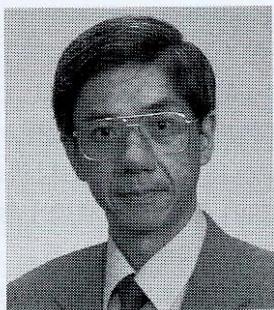
1. 分散電源を含む新しい電気エネルギー流通システムの研究
 - Flexible Reliable Electrical eNergy Delivery System: FRIENDS
 - 品質別電力供給供給システム
 - 直流ループ型配電システム
 - 電力融通型太陽光発電システム
 - 需要地系統など
2. 瞬時電圧低下対策装置の研究
3. 分散電源・電力貯蔵装置用電力変換器の回路および制御方式の研究
4. 磁場閉じ込め方式核融合炉のための電源の制御に関する研究
5. 誘導雷サージ解析に関する研究



電力融通型太陽光発電システム

以上に紹介したように研究テーマは多岐に亘るが、新しい技術がもたらす次世代の電力技術への波及効果の測り知れぬ大きさを夢見つつ本研究グループは歩み続けている。

電子工学専攻
集積電子システム工学講座
集積光電子工学領域



教授 栖原 敏明

本研究室は、その歴史を昭和33年（1958年）に新設された電子工学科（6講座）の第2講座（電子管設計工学）に遡ることができるが、昭和48年頃から実質的には光電子工学やレーザ応用の分野の研究と教育を行うようになり、昭和64年に光波電子工学講座に改名され、平成8年の大学院重点化により集積光電子工学領域に改められた。昭和48年から59年までは小山次郎教授、平成13年3月までは西原浩教授が担当され、平成14年8月より栖原敏明が担当している。

平成16年2月現在の研究室の人員構成は、教授 栖原敏明、助手 藤村昌寿、科学技術振興特任教員 上向井正裕、技官 林由樹雄、事務補佐員 芳崎由佳、日本学術振興会外国人特別研究員1名、大学院学生7名、学部学生5名である。栖原は大学院講義「量子光電子工学」、「光波電子工学」、「集積光学特論」、学部講義「光波工学」、「量子光エレクトロニクス」と「電磁理論演習」などを担当している。

本研究室では、光通信・光情報処理システムの将来の発展を支えるための、集積光電子デバイスの基礎研究を行っている。電子デバイスの限界を超える高性能や新機能をもつ多くの実用的な光デバイスを実現するには集積化技術が極めて重要である。本グループでは20余年前から、光導波路構造を用いた集積光デバイスを中心とした研究を行ってきた。特に周期構造を応用する点を特色としている。光通信、光情報処理、光メモリ、光計測などの具体的応用をもつ種々の光集積回路、集積フォトニックデバイスを考案し、理論解析・設計を行い、実際に作製して実験で可能性を実証することを目的として研究を行っている。独自開発の光デバイス作製用電子ビーム描画装置をはじめとする多くの作製装置と実験・測定装置を保有しており、これらを駆使して全てのプロセスや実験を研究室内で行うことができる。

現在の研究は導波型非線形光学デバイスと集積半導体レーザに重点を置いており、主な研究項目は以下のとおりである。

- I. 非線形光学波長変換デバイスに関する研究
- II. 非線形光学超高速光信号処理デバイスに関する研究
- III. 稀土類ドープ導波路レーザに関する研究
- IV. 集積量子井戸半導体レーザに関する研究
- V. 半導体モノリシック光集積回路に関する研究
- VI. 集積量子フォトニックデバイスに関する基礎研究
- VII. 光集積回路用光導波路に関する研究
- VIII. 集積光電子デバイス作製装置・技術の開発

研究項目VIは将来の量子情報通信・処理の可能性を探索するため、光子のひとつひとつを操作することのできる集積デバイスを実現しようとする基礎研究であり、阪大フロンティア研究機構（FRC）のプロジェクトテーマとして実施している。

電子工学の中核的領域のひとつである光電子工学の領域で、物理的基礎を重視するとともに、先端的・革新的なデバイスの実現と新規な応用開拓を目指して研究に取り組みたいと考えている。今後とも電気会の会員各位のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

退官された先生方の近況

森永 規彦（通信・M 昭 40・D43・大阪大学名誉教授）

昨年 3 月に阪大を定年退官後、ほぼ丸 1 年を迎えるとしています。この間、広島の呉市にできた広島国際大学呉キャンパスにおいて、新しく情報通信学科の立ち上げの仕事に従事してきました。この大学は大阪工業大学・摂南大学と同じグループ大学ですので、例えば大阪工業大学の呉キャンパスと言った方が通りがよいかもしれません。

私がまだ阪大在職中に学校法人・大阪工大摂南大学の方から依頼があり、2002 年度に呉市に新しく工学部系の学部を新設し、その中に通信の色合いの強い情報系の学科を設けたいので面倒を見てもらいたいということでありました。私自身はまだどこへゆくとも決めていなかった頃で、考えてはみますがという程度のご返事しかしなかったわけですが、再度、強い要請があり本気で考えることとなつたわけです。

新しく大学を造れば学生が集まるという良き時代は去り、今や受験生集めに四苦八苦する、特に新しい私立大学にとっては大変厳しい時代であることも十分承知していました。しかし、新しい学科創設の理念、将来ビジョン、学科の特色、教員人事、カリキュラム構成、等、すべて白紙の状態から任せられるということは、いわば新しくベンチャー企業を立ち上げることに等しく、ひとつ時代に合った挑戦的な態度でやってやろうということになりました。

学生定員は 110 名、教員数 20 名、しっかりした経営バックにも支えられて、瀬戸内海の明るく温暖な気候と交通の至便さに恵まれた呉キャンパスで元気に仕事を続けています。私自身は退官後 2003 年 4 月から学科長として正式に加わりましたのでやっと 1 年が過ぎようとしているのですが、これまで阪大の先生方や私がお付き合いさせていただいていた中央省庁の方達や企業の方達がこの呉キャンパスを訪ねて下さり大いに元気付けられています。

完成年度まであと 2 年を残す新しい学科にとって最も重要なことは、高校回りもさることながら、もっと世間に広くその存在を知ってもらうために強力にアピールしてゆくことであって、そのため、3 年目に入る今年からは広島や大阪の中心部で当学科のキャンペーンをはることにしています。講演会皆様のご支援を切に願う次第です。参考までに今年 1 月に作りました当学科の研究室組織図を掲げておきます。

【情報通信システム研究分野】

無線・移動体通信研究室（森永教授）
衛星通信システム研究室（川上教授）
時空情報通信研究室（水口教授）

【マルチメディア通信研究分野】

情報磁気応用研究室（浦井教授）
情報ディスプレイ研究室（松川教授）
画像エレクトロニクス研究室（阿部教授）

【情報処理・ネットワーク研究分野】

光波ネットワーク研究室（荒木教授）
情報ネットワークシステム研究室（斎助教授）
Web システム研究室（生田目助教授）
情報アルゴリズム研究室（間島講師）

【情報通信デバイス研究分野】

電子デバイス研究室（菅 教授）
集積回路システム研究室（小谷教授）
電子回路応用研究室（寺重助教授）

山中 龍彦（電気昭38・M40・大阪大学名誉教授）

昨年の3月に定年退官でレーザー研、電気工学専攻を離れ、福井工業大学に週2日勤務し、電気電子工学科で電気回路、電気電子計測、レーザー工学の講義ならびに本学特有の教養部の基礎工学科目である創成科学ならびにFTH（Free Talking Hour）などを担当しています。

創成科学やFTHは近年とみに低下する学生の資質の向上を目的として考えられた授業です。創成科学は、2年生の前期、後期の授業で、学生自身に研究テーマを考えさせ、学期内に研究成果を纏めさせるもので、近年とみに顕著になっている若者の受動的思考・行動パターンを、自身で問題を設定、解決することを通して知的達成感を味わわせることにより、能動的パターンに変えようすることにあります。先生は5～6名の学生を受け持ち、学生のテーマ設定、問題の解決に対するアプローチ法などを助言し、学生の積極性を引き出すことが主たる役目です。

FTHは、1年生と3年生の前期・後期に行われます。私の受け持っている1年生のFTHは、大学とは如何なる所であるかを教え、大学生（卒業生）としての自覚を養い、大学生に相応しい立ち居振る舞い、会話・表現力、読解力、等を身につけさせる授業で、10～20人の学生を受け持ります。先生自身の考え方や経験をふまえて学生に話しかけ、学生との対話を通じて教育すると云うことでFTHと名付けられています。

国立大学に於いても学生の学力、特に数学、物理の学力が低下していると云われていますが、それに輪を掛け地方の私立大学の学生の学力の低下、集中力の低さが著しいことをここに来て痛感し、その回復の必要性をひしひしと感じている次第です。例を挙げると2次方程式が解けない、ルートが開けない学生が少なからずいること。また、答案の書き方を演習問題の回答を通して具体的に教えて、教科書で使われている記号をあたかも普遍的であるが如く何の説明もなく使い、数字を並べただけの答案を書くし、ひどいのになると問題紙の裏で計算したり電卓で計算して答だけを書く者までいる。また、問題を区切らずに複数の問い合わせに答えさせると、一つの問い合わせにしか答えない学生が多数いる。このようなことは、一つには共通1次試験に始まる選択回答が身に染み付いていることや語学力の不足、ならびに時間を掛けて真剣に勉強したことがないことによる注意力、集中力、忍耐力の不足によるものと推察できる。

この著しい地方私学の学生の学力低下は、以前から云われている「一流大学の学生の親の大多数は有名大学の出身者か裕福で教育熱心である」の裏返しを反映していることと、初等、中等教育が「ゆとり教育」の下で歪められることによるものと思われる。以前は、大部分の日本人は少なくとも中流階級になりたい、中流階級であるとの意識の下、仕事に、教育に励んだ。その結果、全てが豊かになり、豊かさに慣れて勤勉さと教育への努力が一部の家庭で疎かにされた結果として進行しつつある2極分化を反映しているように思われる。

これから日本は、中国、韓国やASEANの技術力の進歩により、高付加価値の高度製品に活路を見出さなければならぬ。それは、阪大の卒業生のように先頭に立って新しい技術や製品を開発する優秀な研究者・技術者と彼らが開発する新しい技術を下支えし、使いこなしていくことになる前者に倍する技術者の両方がいて初めて可能になる。後者の役割を果たすことになると思われる本学の学生をどう教育すれば、その任に耐えられる技術者に育てられるかと考えつつ、日々の教育に当たっています。幸いにも、当学の学生は非常に純朴で、素直であるのが救いです。

卒業生の近況

山谷 誠（電子・昭48・M50）

これが発行される頃は阪急千里山駅近くに引越しています。吹田キャンパスからの帰りによく行った駅前は今も昔もほとんど変わっていません。古い市場はマンションになり噴水もリニューアルされましたが、商店街や町並みはそのままで。半導体業界に入り、最初にテレビの選局LSIをつくりました。そのころチャンネルは接点式でしたが4ビットマイコンとシンセサイザ回路をLSIにして完全電子選局になりました。6ミクロンの最小寸法で2万素子くらいのLSIです。いまは同じテレビでも32ビットマイコンとデジタルハイビジョン回路ほぼ全部をLSIにして0.13ミクロンで数千万素子にもなります。値段はあまり変わらず1000倍以上です。半導体は「無限の可能性」、「産業の米」とよく聞かされました。正にその通りになってきていると思います。近況ですがここ数年は半導体の業界活動に関わり、同業や大学関係の方と接する機会が多くあります。金食い虫の業界なので非競争領域は共同で費用を減らそうというわけです。多くの会社での共同事業はなかなかうまくいかない面もありますが、特に大学には共同で一部費用負担して5年、10年先に使える研究をお願いしています。直接ではありませんが阪大の方にも多くの方にお世話になっています。

卒業して30年近くたつといろいろなことがあります。単身赴任や海外留学にも行きました。海外留学に行け、行く所は自分で探せ、には困りました。日本半導体が好調で米国からシェア20%は義務だといいがかりをつけられた頃なので受け入れてくれる大学がなかなかなく、困ったときの大学頼みで、浜口智尋先生に大変お世話になりました。おかげ様でニューヨーク州にて1年余りすごすことができました。また、在学中クラブ活動は応援団に在籍しましたが、今もOB会が続いています。OBには医師と弁護士がいて阪神大震災で困った人など何人もお世話になっています。白川功先生には教授になられてすぐ応援団の顧問を引受けて頂き、以来昨年退官されるまで続けられました。ホントに応援団大好きでかわいがって頂き、OBとしては感謝しきれません。これからもいろいろチャレンジしたいと思います。近くに住んでいますのでまたお世話になります。（松下電器産業（株）半導体社）

池田 直昭（電気・昭58・M60）

早いもので吹田キャンパスを離れて20年になろうとしています。私は学生時代にレーザー研でレーザー核融合の研究をしていたこともあり、三菱重工に入社後、新型炉（高速増殖炉、新型転換炉、核融合炉）の開発部門に配属されました。約5年間は、高速増殖炉のプラント工事に従事する傍ら、新しい超音波検査技術の開発や核融合炉用水素同位体分離精製システムの開発などを担当しました。その後、新製品開発部門に移り現在に至るまで、主として国内の大学や研究所向けに自由電子レーザー、加速器およびその周辺装置、放射光発生装置、超伝導機器、全固体レーザー加工機などの試験装置を開発してきました。さらにここ数年は、担当分野が従来の官需対応のみならず民生品に直結する、半導体製造装置やフラットパネル製造装置にまで広がってきています。一見関連性が無いよう見えるこれらの製品ですが、電磁気応用製品であるという点、システム化する上で電気、機械、制御さらには各製品固有のプロセス技術まで踏み込んだ取組みが必要という点での共通点があります。個人的には、担当する最終製品が原子力プラントから半導体チップまでサイズダウンしてきたことにこの20年間のあらゆる変化が凝縮されているように感じています。

入社以来、一貫して開発部門での業務に携わってきましたが、新製品開発においては時代の動向・変化をキャッチするアンテナを高く持つことと自分の専門分野のみならず周辺分野を含めた最新技術を常に勉強して身に付けておくことが近年ますます重要になってきたと痛感しています。幸いにも私が担当した製品開発の多くは、阪大の先生方にお世話になっており、今でも年に数回吹田キャンパスを訪れる度に新しい概念や開発のヒントをいただいて

います。

私生活では、週末のジムワークとテニスで体力維持とストレス解消に努めるとともに、趣味である各地の美術館・寺社めぐりで気分をリフレッシュしています。何事も継続すること、新しい物事に対する興味・探求心を持つこと、を忘れずに今後も新製品の開発と事業化に自分なりの足跡を残せるよう地道に努力し、微力なりとも社会に貢献できればと思っています。

(三菱重工業(株) 神戸造船所 新製品・宇宙部)

住友 弘二(電子・昭61・M63・D3)

平成3年に、日本電信電話(NTT)に入社以来早13年が過ぎようとしています。この間に、バブルの崩壊、インターネットの急激な普及、NTTの分割等、取り巻く環境の変化はすさまじいものがあります。そんな中、組織の若干の変更はあるものの、ずっと企業における「基礎研究」に従事しています。学生時代に塙先生や尾浦先生の下で始めた半導体表面の研究をベースとして、将来の高度情報流通社会のハードウェア基盤を支える新原理デバイスや新技術の創製をミッションとした研究を続けています。原子・分子レベルの構造を制御するナノテクノロジーを発展させ、現在のデバイスの処理速度・消費電力・サイズの壁を越えられるような革新的な技術を生み出し、新分野を開拓する事が求められています。そんな中、企業における基礎研究では、革新的な研究の遂行と、研究開発による事業貢献という、一見相反するような二つの要求にジレンマを感じる事になります。「企業に基礎研究は必要ない」と言う声も聞こえてきます。実際、世界的に見ても、企業における基礎研究は縮小傾向にあります。基礎研究では、個人の興味や趣味に偏った研究に陥りがちな事も事実ですし、もっと視野を広げなければ感じ事も多いです。少し違った分野の人の話は新鮮で、その視点の違いに驚かされる事も多く、また得るものもたくさんあります。しかし、好奇心の無いところに新しい発見や発明は生まれてきません。現在のあらゆる技術は、先人たちのそのような発見や発明の上に成り立っています。我々の研究も、近い将来現れるであろう大きな技術の壁を越えるために必要なものだと思っています。広い視野を持ち、好奇心を失わないようにしながら、将来の事業に貢献できるような、そして少しでも社会の役に立てるような研究を続けて行く事が出来ればと思っています。

(日本電信電話(株) NTT 物性科学基礎研究所)

今井 明(通信・昭62)

卒業以来、特に95年末から02年3月末までは、大阪からの時差9時間、距離1万キロにある英国オックスフォードのシャープヨーロッパ研究所(www.sle.sharp.co.uk)に出向したこともあり、大学の方々とは疎遠になってしましました。日本に帰国して2年が経ちましたが、その間、ヨーロッパ研究所で研究開発を行なっていた3D液晶技術の事業化を推進しております。ヨーロッパ研究所の研究内容は、液晶、オプトデバイス、光学、情報技術、3Dを含む映像技術など、多岐に渡っております。大学の頃から研究・仕事は全て計算機ソフトウェア関係であったこともあり、それ以外の分野では問題の本質を理解するのが難しく、「こんなことならもっとmajimeに他の授業も受けておくんだった」と後悔しても先に立たず、最初の頃は日本語で聞いても理解できない内容を英語で理解するという苦労を味わいました。3D液晶は、欧洲の研究者が提案したものを、日本の工場で量産できる形に仕上げ、携帯電話やパソコン向けに商品化しています。一言で言えばそれだけの話なのですが、やはりそれを事業にしてゆく過程では、異なる文化の間に生じる様々な誤解や問題を一つ一つ解決してゆく必要があります。ただし、「異なる文化」とは、決して「英語と日本語」とか「欧洲文化と日本文化」の違いではなく、最も本質的なのは「研究所文化と事業部文化」であると感じます。同じような問題は日本国内でも起きることであり、上手くゆかない時に、安易に国や言葉の違いに責任転嫁してはならないと常に自分を戒めています。3D液晶は、単に液晶デバイスを作るだけに留まらず、そこに表示する魅力あるコンテンツや、ソフトウェアなど、トータルなシステムとして捉えて考えてゆく必要があり、異業種入り混じった3Dコンソーシアム(www.3dc.gr.jp)という場で普及のための活動

も行なっています。まだまだ力不足ですが、様々な分野での経験を頂いたことで、異業種の方々とそれぞれ異なる「言語」での会話の中にある新鮮な発見を楽しんでおります。6年の英国生活は、家族も含めて今では懐かしい思い出です。子供達同士の喧嘩のなかに英語が出てくることは、すっかりなくなってしまいました。

(シャープ(株)モバイル液晶事業本部)

北岡 康夫(電気・平1・M3)

大学を卒業して、早いもので13年が経ちました。入社して10年は、次世代の高密度光ディスクシステムのキー コンポーネントである青色光源の開発に携わりました。今では、GaN系半導体レーザにより青色光源が実現されていますが、15年前には直接発光型のレーザが未だ研究レベルにありました。大学時代は、非線形材料や固体レーザの研究講座に配属され、新有機非線形光学材料の開発、および波長変換による青色光発生に関して研究を進めていました。今でこそ産学連携が活発ですが、当時では珍しく、松下電器とも共同研究をしていました。そのような背景の中、企業での実用化を目指し松下電器に入社し、青色光源の開発に着手いたしました。私の場合、大学の研究テーマを会社で継続することができたので、入社当初より開発メンバーの一員として力を発揮することができ、充実した10年を過ごすことができました。

入社して10年が経ち、昨年より再び大阪大学に戻ってきて、新しいテーマで研究開発に着手しています。私自身は、卒業以来、湯電会やその他大学のイベントに参加させていただき、先生や同窓生との人的ネットワークは大切にしてきました。日本では米国と比較すると、卒業生同士の情報交換が少なく、そのためビジネスチャンスの機会を失っていることが多いと思います。今回の共同研究開発も、先生方のご指導がありテーマ発足に繋がっており、感謝しております。

今でも、同窓会などで仲間と話をしていると、いろいろな将来の夢を語り合います。それぞれ異なる会社・環境で日々を過ごしている仲間と話をすると、普段とは違った刺激を受け、自分も新しいことにチャレンジし続けなければ感じます。卒業生同士のネットワークがさらに強くなれば、もっと大きなことができるんじゃないかな、と期待しています。

(松下電器産業(株)先行デバイス開発センター)

中村 哲(情シス・平6・M8)

平成8年にNTTに入社してから約8年間、振り返ると本当にあつという間でしたが、主にインターネットビジネスに関する様々な業務を行う中で、数々の貴重な経験を積むことができました。

入社してからの2年間は、インターネットもまだ現在ほど広く普及していませんでしたが、そのような中で、新しいインターネットビジネスを立ち上げるプロジェクトに参加し、インターネットシステムの開発や検証・構築業務に携わりました。学生時代にLSIのCADシステム開発を通して培ったUNIXシステムに関する知識を活用しながら、業務の進め方がわからないなりに無我夢中で頑張りましたが、その甲斐もあって自分の携わったシステムが世の中で使われていることを実感した時の充実感は、今でも鮮明に覚えています。

入社3年目の平成10年には、アメリカ合衆国での業務研修という機会を得て、NTTアメリカにおいてインターネット事業の立ち上げ及びサービス運用・カスタマサポートに関する業務研修に携わりました。渡米後の数ヶ月は、住み慣れない土地での生活に慣れるまでに非常に苦労したことは言うまでもありませんが、約1年間の米国内での業務経験の中で、特に、インターネットビジネスに関する先進性、米国企業での仕事の進め方、仕事に対する考え方、等々、様々な面での、日本の場合と比較したときの違いを体感することができました。と同時に、世界に目を向けたグローバルなビジネス感覚の重要性を強く感じました。

そして、帰国後から現在に至るまでは、ハウジングサービス、Webホスティングサービスを始めとする、インターネットデータセンタビジネスを事業の柱とする、NTTスマートコネクト株式会社(NTT西日本100%出資子

会社)にて業務を行っています。特に、事業の立ち上げというのは想像以上に労力のかかる業務で、各人が営業からサービス企画、開発・運用に至るまで幅広い業務を担当する必要もありましたが、苦労も多かった分、他では得られない貴重な経験ができました。

入社から8年目でまだ業務経験の浅い私ですが、その中で得られた経験に基づいて強く感じていることは、技術や知識、ノウハウを習得し、積み重ねていくことはもちろん大切ですが、それ以上に(非常に基本的なことはあります)、自分の仕事に対して誇りを持ち、その仕事に情熱を持って取り組むことが何よりも重要である、ということです。これからも、向上心を忘れず、自分の仕事に情熱を持って業務に取り組んで行きたいと考えています。

(西日本電信電話(株)人事部(NTTスマートコネクト))

衣笠 潤一(電気・平8・M10)

大学院を卒業して早6年が過ぎ、気づいてみれば30歳を迎えました。改めて振り返ると時が過ぎる速さに驚くばかりです。私は卒業後JR西日本に入社し、現在技術部(電気技術グループ)に所属しております。弊社が求める技術というと、私が取り組む電気技術以外にも、レールを保守管理に関わる土木技術、駅舎をはじめとする建築全般に関わる建築技術、車両のメンテナンスに関わる機械技術等といった多分野に渡っており、技術部はこれらの各分野での問題点・開発要素に対する研究を担っています。異なる専門技術を持つ人材が集まっていることもあり、相互に良い刺激を受けながら業務に携わっています。このような職場で、私は電気技術の中でも主に電車の動力源である電力を供給する架線に関する開発に現在取り組んでいます。架線とは、言い換えれば変電所という大きな電源から負荷である電車までを結ぶ電気回路部分のことであり、学生時代に取り組んだ超伝導薄膜といったナノスケールの世界とは異なり、現在は非常にマクロな世界に携わっています。しかし、そのようなマクロな世界においても、例えば設備不良箇所の分析にSEMによる断面図やXRDによる成分分析が用いられており、試料の取り扱いに注意を払いながら測定していた学生時代が思い出される節が多々あります。

入社以降私が携わった最も大きな業務として、JR小浜線(敦賀(福井県)~東舞鶴(京都府)間)の電化工事が挙げられます。具体的には、架線を支持する電柱の掘削・建植をはじめ架線の新設等電車に電力を供給する設備を一から作り上げる工事に従事し、工事の進行に伴って線路周辺の景色が変わっていくのを見て、成果に対する充実感を感じながら日々取り組んでいたことが懐かしく思われます。プライベートでは、当時アパートでの一人暮らしを初めて経験したこと、それまでしたこととなかった料理に挑戦した結果、工事が終了する頃には料理本を買ってきて休日には新たなメニューに取り組むほどすっかり趣味となっていました。近頃はなかなか作ることができませんが、実家に帰ったら今でも母との良い話の種となっています。

また、東は新潟県、西は福岡県まで弊社の営業エリアは東西にかなり広いことから勤務地も幅広くなる反面、旅行好きの私にはその土地毎の風土を良く知ることができる良い機会となり、第二・三…の故郷が増えしていく今日この頃です。

(西日本旅客鉄道(株)技術部)

山田 逸成(電気・M平12)

三洋電機に入社して4年が過ぎようとしています。24年間大阪から移ることなく育ってきたわたしでしたが、入社してまもなく、岐阜の安八という所に移り住むことになったのは、私にとって大変衝撃的でした。その岐阜にはDVDなどのディスクの信号を読み出すピックアップ素子の研究部門があり、その光学設計等の研究開発していました。入社3年目には、群馬にあるピックアップ事業部への派遣も経験しました。当初2ヶ月の予定で派遣を言い渡されていたのですが、三洋電機はピックアップ素子のシェアが高く、特にパソコンに使用されるCD/DVDの複合型のピックアップは現在に至っても、非常に売り上げが好調であることから、結局約1年間延滞しました。事業部での業務は思っていた以上に忙しく、サンプル試作の設計や、信頼性の評価など担当していました。なかでも

光学系の評価を主に任されていたわけですが、学生時代に学んだレーザー工学や光学などの知識が非常に役に立ちました。昨年からは大阪の枚方にある材料系の部署に移り、新たな分野に挑戦しているところです。これからも自身の能力を高めていき、低コストかつ、質の良い製品を世に送り出していきたいと思います。

趣味ですが、学生時代の時にもやっていたサイクリングを入社して再度始め、岐阜在住時は没入状態でした。行き先は岐阜から往復 200~300km 程度で行くことができる福井や、長野、愛知、富山、関西の地域などの観光地を見つけては日帰りで行っていました。最近では、そのサイクリングがエスカレートし、一日で一気に琵琶湖を 2 周（内回り、外回り）走破することもでき、大変満足しているところです。これまでいろいろ危険な思いも経験しましたが、自転車を介して知り合った方や、得ることができたことが多いので、死なない程度で、体力の続く限り、自転車に乗り続けていきたいと思っております。今後はこれまでのようなサイクリングと併行して、レースにも出場していき、なんとか良い結果が得られるよう楽しみながら頑張っていきます。当然、技術者としても電気系の諸先輩方にも恥をかくことがないよう精一杯努めていく所存でありますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

（三洋電機（株）技術開発本部）

留学生の声

辛 文（電気工学専攻・M2）

中国の北の町である長春から留学のために日本に来ていよいよ 5 年になりました。「光陰矢の如し」という諺にいつも感心します。日本に来たばかりとき、本当にたくさんの事に驚かされて、中国との差を感じました。一番感心することは日本の物価が中国より五~十倍も高いことでした。そして一年目の大阪の夏は寒い気候に慣れた私にとって非常に苦しかった。36 度ほどの気候で駅から寮までわずか 5 分間の道を歩いたらたくさんの汗が絶えず流れで来たことを今でも思い出します。一方感心したことは、日本の街が綺麗で、安全で、自動車はクラクションを鳴らさず、運転マナーが大変良いことでした。最初、留学生にとって一番困ることはやはり言語の壁です。私は日本語があまりできない状態で日本にきて、いろんな心配を持ちました。日本語専門学校を通じて日本語を勉強するのはもちろん主要な手段であり、周りの日本人友達から熱心に助けて頂いて日本語の勉強になるようになりました。また、テレビを見ることは日本語の勉強にはたいへん役立つだと思います。特にニュースの番組は聞きやすいし、字幕もかけるから初心者にもとても便利です。テレビを見ることによって日本の経済や外交政策、政治制度などを少し了解しました。生放送で国会議員の意見が分岐になるとけがをする画面に驚かされました。「それはいわゆる民主国家だかな？いいじゃない」と思います。そして、私は日本で生活して 5 年くらい経って、今では、故郷で見えられない綺麗な春の桜、秋のもみじ、近いところで見える海、美味しい刺身、礼儀正しく真剣に働く日本人などのイメージを思い浮かび、「なるほど！こんな国でした。」と思われます。近年、中国と日本の間に何かの原因でしばしばトラブルが起こっていたが両国の政府および国民は協力して仲良く発展するようになれば両方の国民に利益を得られると思っております。私たちの留学生は将来、きっと日中友好の橋となり、21 世紀の世界への責任の自覚を一人一人が持つように、心から願っています。

3 年前、私は研究生として大阪大学院に入り、伊瀬教授の下に学生の一員になりました。私は伊瀬先生の指導で電力変換システムに関する研究を行っていました。正直に言えば、当時卒業までできるかなと心配しました。伊瀬先生は御親切に研究に関する御指導や御助言を頂きました。句読点まで訂正して頂いてとても感動しました。ここで伊瀬先生に厚く御礼申し上げます。また同じ研究室の松原先生、打田先生及び学生の皆さんから研究討論や学会発表などおいて熱心に助け合い、様々な協力して頂き、大変ありがとうございます。

Daniele Alzetta (通信工学専攻・D3)

Ciao! イタリアのヴェネツィアから来ましたダニエレアルゼッタと申します。1999年にイタリアにあるパドヴァ大学の修士課程を専攻していて、他国で研究などを学びたいという気持ちがあったので、「OUSSEP」という大阪大学交換留学特別プログラムで来日しました。その時日本を全く知らなかったけど、日々研究をしていくにつれて、日本の文化や言葉なども学ぶ経験をしました。しかし、そのプログラムの期間は一年間だけだったので、もっと日本に滞在したくて、国費留学生として大阪大学の博士課程に入学しました。この4年間、松本先生の下で、光ファイバ伝送システムに関する研究をしました。日本語の読み書きについて大変苦労したが、先生方や学生達に助けてもらい、とても感謝しています。日本の大学の研究室での生活は、とても楽でした。24時間中、勉強できるところなので、時間帯を決めて本当に自分のペースで進んで行けました。一方で、日本のほとんどの学生達は24時間勉強できるということから、1日中朝から夜まで、へたすると次の日まで大学で生活することになります。これは理解しがたい事です。なぜそんなに大学にいたいのだろうか?私にとって約8時間しっかり勉強して、他の時間は自分の趣味などに費やした方が良いと思います。話はかわりますが、私が日本に来て、いろいろ驚きと尊敬するところがありました。その中の一つを書こうと思います。それは日本人は海外の国について多くの情報を知っている。特にヨーロッパやイタリアなどの歴史や美術、料理などいろいろ詳しく知っています。逆に、私はイタリア人として日本の事をあまり認識がなく恥ずかしい気持ちがありました。イタリア人達は東アジアにある国々をすべて1つの物のように考えています。中国や韓国、そして日本の文化など、日本で生活するようになり研究だけでなくいろんな事が学べました。そのことをイタリアの人達にも、私はこれから伝えていきたいと思います。おかげで素晴らしい4年間を過ごすことができ、有り難うございました。Grazie!

Winadda Wongwiriyapan (電子工学専攻・M1)

えっ日本で10年間留学??? タイ政府派遣留学試験に合格したとき、驚きました。不安も感じましたが、先進国であると言われる日本がどんな国なのか、留学生活がどんなものなのか好奇心に駆けられ、日本への留学に決心しました。1年半の日本語学校、4年間の大坂大学工学部電子情報エネルギー工学科を経て平成15年度に無事に電子工学専攻博士前期課程に入学し、尾浦研究室に所属させてもらいました。あっという間に6年間過ぎました。日本の大学は経済面も設備面も十分備えているため、研究するにはとても良い環境です。また、研究する機関は大学でだけではなく企業にも研究所の施設があり、一般の企業でも研究が行われています。このため新しい成果をたくさん生み出せ、国の発展につながっているのではないかと考えています。特に、関心をもつのは日本人の性格です。日本人が一人ではなく、チームワークで行動し、たとえ小さな仕事でも自分の責任を担って、仕事を完璧に完成させると聞きました。私は研究室に入ってから回りの先輩や同級生もこのような性格であると自分自身で確認できました。このような日本人の性格により今日の先進国日本になると言えるでしょう。私も、大学院間に日本人学生に負けずに素晴らしい研究成果を挙げようと思い、友達と遊ばずに研究ばかりしました。しかし、良い成果どころかストレスをたまっていました。念願の博士後期課程を修了するまでは後4年間だけですが、突然自分の進路に迷いが生じました。言葉や環境のカベはもちろんありますが、毎日頑張りすぎて疲れきった自分の能力に自信が突然なくなって、やりたいことを見つけられない自分が博士後期課程に行くべきだろかと一人で悩んでいました。しかし、研究室の先生や先輩が相談に乗ってくれ、いろいろな意見を聞いたことで、やっと自分がやるべきことを見つけました。これからは日本に残るわずかな4年間で勉強ばかりではなく、リラックスして遊びながら充実した生活を送りたいと思っています。国に帰るまでにだれにも負けなく自分にしかできない技術をつかんでいけるように望んでいます。最後に、いま日本で留学している留学生にも、これから海外に留学に行く日本人学生にも、言葉・文化・寂しさといった大きいカベがありますが、自分が留学生であるからといってそんなことができないなど自分を見下ろさずに、どんなことがあっても自信をもって、自分がもつ能力をすべて生かして、楽しい留学生活を送って欲しいです。

Tyronne Sandeva Goonetilleke (情報システム工学科目・B4)

私は初めて日本に来てから5年たちました。最初一年間大阪外国語大学で日本語を学びそれから大阪大学の電子情報エネルギー工学科に入学し、今年卒業するの予定です。この5年間の間多くの日本人の皆さんにお世話になりました。特に岸野先生、北村先生、白川先生、尾上先生をはじめとする先生方、大阪大学留学生センターと工学部の留学生相談室の先生や職員の皆さんに本当にお世話になっております。この場を借りて心より御礼を申し上げます。

日本に暮らしてきたこの5年間は日本の文化に触ることができ、また色々の国々から来られた留学生の皆さんを通じて様々な文化に触ることができ、非常に貴重な体験が出来ました。そのおかげで世界はどれだけ広いのか、そこに暮らしている人間の考え方はどれだけ様々なのかということは身近に感じました。その中で、国が違っても、考え方方が違っても、相手の気持ちを分かってあげるために出来るだけの努力をしなければならない、それからお互いの考えを認め合わないといけないということが良く分かりました。嬉しいときも悲しいときも一緒に暮らし、いつも助けてくれる、留学生の皆さんに深く感謝をいたします。

留学生は日本で暮らしていく中でどういう苦労をするか、言葉の壁、文化や考え方の違い、母国から家族から離れて暮らす寂しさ、などなどの問題をどうやって乗り越えるかといったことについて心配をしてくれる日本人もたくさんいます。それから留学生と語り合って外国のことをよく知りたい、学んでみたいという風に考えて、我々に話しかけてくる日本人も数多くいます。さらに日本の文化や言葉、技術やノーハウを留学生にも知ってもらいたい、本国に帰った後もそれらを活かせてほしいと思ったから我々に色々なこと教えて下さる日本人もいます。こういった様々な形で我々は多くの日本人の皆さんにお世話になっております。ほんとに有難うございました。

しかし、日本の暮らしもよいことや嬉しいことばかりではなかった。日本にいる限り、日本のやり方、習慣などに従え、自分の考えを何であっても、日本の考えに従え、いくら外国人留学生でもそういうことは許すわけにはいかない、とおっしゃる日本人もたまにはいます。彼らは我々に、『郷にいれば郷に従え。』とよくいいます。我々もなるべく、問題が起きないように出来るだけのことは日本人に合わせる努力はしております。しかし、それには限界があります。我々は日本に留学したかっただけであって、日本人になりたかったわけではありません。

母国にいても、外国に行っても、心優しい人もありますが、冷たい人もあります。他人の話を聞いて参考にしたいと思う人もありますが、自分の考えばかりが正しいと思う人もあります。フレキシブルな人もあれば、頑固な人もあります。私もこういった違いについて少しあはわかっていましたが、留学することでその多様性は実によく分かりました。そういう風に世の中の厳しさを教えてくれた皆さんにも感謝します。

会員の方々のご活躍

叙勲・褒賞

故村上吉繁 名誉教授

勳三等瑞宝章受章、従四位叙位（平成15年7月20日付）

平成15年度秋 叙勲（平成15年11月3日発令）

山野政信 氏（通信・昭23）

瑞宝双光章

今井貞夫 氏（通信・昭24）

瑞宝小綬章

山縣 保 氏（通信・昭26）

瑞宝中綬章

受賞（学会賞・学会フェロー称号等）

坂上仁志 兵庫県立大学助教授（電気・昭57・M59）

IEEE/ACM Supercomputing2002

The Gordon Bell Award for Language

平成14年11月21日

北山研一 教授（通信・昭49・M51）

IEEE フェロー

For contributions to optical fiber communications,
radio-on-fiber communications, and photonic
networks

平成15年1月1日

電気通信普及財団 2003年第18回テレコムシステム
技術賞

Transparent Virtual Optical Code / Wavelength
Path Network

平成15年3月17日

寺地徳之 助手（電気工学専攻）

第13回応用物理学会講演奨励賞

平成15年3月27日

尾崎雅則 助教授（電気・昭58・M60・D63）

応用物理学会 JJAP 編集貢献賞

平成15年4月16日

寺田浩詔 名誉教授（通信・M昭33・D39）

電子情報通信学会 平成14年度功績賞

平成15年5月28日

白川 功 名誉教授（電子・昭38・M40・D43）

電子情報通信学会 平成14年度功績賞

平成15年5月28日

小牧省三 教授（通信・昭45・M47）

「電波の日」総務省近畿総合通信局 局長表彰

平成15年6月2日

濱口智尋 名誉教授（電気・昭36・M38・D41）

HCIS (International Conference on Hot Carriers
in Semiconductors) 功績賞

平成15年7月31日

高部英明 教授（電気・昭50・M52・D55）

米国原子力学会 エドワード・テラー・メダル

レーザー核融合爆縮安定化の高部理論、統合コード開
発、および、レーザー宇宙物
理という新領域開拓への貢献

平成15年9月10日

塩澤俊之 名誉教授（通信・昭39・M41・D44）

電子情報通信学会 フェロー

相対論的電磁理論及び自由電子レーザに関する研究へ
の貢献

平成15年9月24日

谷口研二 教授（電子・昭46・M48）

電子情報通信学会 エレクトロニクス賞

シリコン MOS 集積回路のプロセスと信頼性に関する
先駆的研究

平成15年9月24日

吉野勝美 教授（電気・昭39・M41・D47）

日本液晶学会 業績賞

平成15年10月

IEEE フェロー

For contributions to organic electronic and opto-
electronic materials

平成16年1月1日

西原 浩 名誉教授（通信・昭35・M37・D40）

米国光学会 フェロー

平成15年

田中和夫 教授（電気・昭49・M51・D58）

アメリカ物理学会 フェロー

For outstanding experimental contributions to high energy density plasma physics in the areas of laser-plasma interactions, equation of state, cryogenic implosions, and fast ignition.

平成15年

藤岡 弘 教授（通信・昭40・M42・D45）

IEEE フェロー

半導体デバイスと集積回路の電子ビームテスティング
に対する貢献により

平成16年1月1日

村上孝三 教授（電子・昭46・M48）

IEEE フェロー

For contributions to the research and development of high speed switching technologies and systems for broadband communications network

平成16年1月1日

村上孝三 教授（電子・昭46・M48）

戸出英樹 助教授（通信・昭63・M平2）

電子情報通信学会

第3回ネットワークシステム研究賞

高品質通信を実現する出力バッファ制御機構の実装

平成16年3月3日

森 勇介 助教授（電気・平元・M3）

丸文研究交流財団第7回丸文学術賞

紫外レーザー光発生用波長変換結晶 CsLiB₆O₁₀ の発見とその実用化に関する研究

平成16年3月4日

塩澤俊之 名誉教授（通信・昭39・M41・D44）

平田晃正 助手（通信・平8・M10・D12）

松山真一（通信・平10・M12）

渡辺弘範（通信・平11・M13）

電気通信普及財団テレコムシステム技術賞

電磁波防護指針の標準化に関する貢献

平成16年3月22日

平田晃正 助手（通信・平8・M10・D12）

船井情報科学奨励賞

人体の影響を考慮に入れた携帯端末用アンテナの設計
平成16年3月27日

森田清三 教授（電子工学専攻）

第8回（平成15年度）日本表面科学会学会賞

原子分解能を持つ非接触原子間力顕微鏡の開発研究
平成16年5月14日

就任（学会の要職等）

小牧省三 教授（通信・昭45・M47）

（財）情報通信学会 副会長、関西支部長

平成14年7月1日

谷口研二 教授（電子・昭46・M48）

日本学術振興会 第165委員会「シリコン超集積化システム」委員長

平成15年4月1日

赤澤堅造 教授（電気・昭40・M42・D49）

（社）日本エム・イー学会 副会長

平成15年6月4日

岸野文郎 教授（情報科学研究科）

（社）映像情報メディア学会 副会長

平成15年

熊谷貞俊 教授（電気工学専攻）

計測自動制御学会 関西支部長

平成15年

IEEE Circuit and System Kansai Chapter Chairman

松浦虔士 名誉教授（電気・昭35・M37）

（社）JECTEC (Japan Electric Cable Tech. Cent.) 会長

平成15年

尾浦憲治郎 教授（電子・昭39・M41・D46）

応用物理学会 副会長

平成16年3月19日

*会員各位のご活躍につきまして記載漏れがございましたら、何とぞご容赦ください。なお、受賞等本欄に記載すべき慶事がございましたら、隨時、滝電会事務局までご連絡いただければ幸甚です。

教室情報

▼平成 16 年度 学生見学旅行

電 気

3月 1 日 (月) NEC エレクトロニクス (株) (玉川事業場)
3月 2 日 (火) 富士電機システムズ (株) (東京工場)
富士通 (株) (富士通研究所)
3月 3 日 (水) 日立電線 (株) (高砂工場)
参加学生人数: 41名
引率教官: 杉野 隆 教授
木村 千春 助手

電 子

3月 9 日 (火) サントリー (株) (武蔵野ビール工場)
3月 10 日 (水) キヤノン (株) (先端技術研究本部)
3月 11 日 (木) 日本電気 (株) (府中事業場)
参加学生人数: 41名
引率教官: 栖原 敏明 教授
阿部真之助 教授
藤村 昌寿 助手

情報システム

3月 2 日 (火) キヤノン (株) (下丸子本社)
3月 3 日 (水) (株) NTT ドコモ (マルチメディア研究所)
日本電信電話 (株) (NTT サイバーコミュニケーション総合研究所)
3月 4 日 (木) (株) 東芝 (研究開発センター)
参加学生人数: 36名
引率教官: 岸野 文郎 教授
北村 喜文 助教授

なお、通信工学科目については、平成 11 年度より春季見学旅行は取り止めとなりました。また、電気系 4 学科目とも、夏季の関西地域企業見学は従来どおり行っております。

▼平成 16 年度 5 専攻長

電 气 工 学 専 攻 杉野 隆 教授
通 信 工 学 専 攻 馬場口 登 教授
电 子 工 学 専 攻 栖原 敏明 教授
情 報 科 学 研 究 科 (情報システム工学科目長) 岸野 文郎 教授

電子情報エネルギー工学専攻 谷口 研二 教授

▼電気系人事 (平成 15 年 4 月 2 日～平成 16 年 4 月 1 日)

木村 千春	助 手	採用 15.9.1	電 気
尾上 孝雄	教 授	昇任 15.10.1	情報科学
松岡 俊匡	助教授	昇任 16.2.1	電 情
塩澤 俊之	教 授	定年退官 16.3.31	通 信
石井 栄	助 手	定年退官 16.3.31	電 子
胡 章貴	助 手	辞職 16.3.31	電 気
三浦 友史	助教授	採用 16.4.1	電 気
春本 要	助教授	昇任 16.4.1	

工学研究科社会連携室

橋本 昌宜	助教授	転任 16.4.1	
			情報科学 (京都大学より)
正城 敏博	助教授	配置換 16.4.1	
			先端科学イノベーションセンター
藤田 玄	助 手	配置換 16.4.1	
			先端科学イノベーションセンター
吉田 哲也	助 手	転出 16.4.1	
			産 研 (北海道大学大学院助教授)

* 電情=電子情報エネルギー工学専攻、
情報科学=情報科学研究科、
レーザー研=レーザー核融合研究センター、
産研=産業科学研究所、
センター、研究所等の協力講座の人事異動を含みます。

▼母校の教壇に立つ本会会員 (平成 15 年度)

- ・電気工学科「特別講義」
関西電力 (株) 代表取締役 副社長
岸田 哲二 (電気・昭 38)
- ・電気工学専攻「電気工学特別講義 I」
奈良工業高等専門学校 電気工学科 教授
藤井 治久 (電気・昭 50・M52・D55)
- ・電気工学専攻「電気工学特別講義 II」
(株) 神戸製鋼所 技術開発本部
開発企画部 企画担当次長
山本 直樹 (電気・昭 50・M52)
- ・電気工学専攻「離散事象システム論」
川崎重工業 (株)
技術開発本部システム技術開発センター
第三開発部 生産情報グループ長

- 長尾 陽一（電子・昭 47・M49）
 • 通信工学科「情報社会と職業」、情報システム工学科「情報社会と職業」
 関西電力（株）研究開発室 電力技術研究所
 IT サービス研究室 シニア・リサーチャー
 山下 育男（通信・昭 63・M 平 2）
 • 通信工学専攻「通信工学特別講義」
 富士通（株）ネットワーク事業本部
 サービスソリューション事業部
 サービスアプリケーション部 部長
 常清 裕之（通信・昭 57）
 • 通信工学専攻「通信工学特別講義」
 （株）ルネサステクノロジ 第一事業本部 SOC 事業部
 SOC-IP 開発部 カスタム IP 開発グループ グループマネージャ
 野上 博志（電子・昭 60・M62、通信・D 平 10）
 • 通信工学専攻「通信工学特別講義」
 日商エレクトロニクス（株）代表取締役社長
 辻 孝夫（電子・昭 48）
 • 电子工学専攻「电子工学特別講義 I」
 東京大学大学院 新領域創成科学研究所 教授
 柴田 直（電子・昭 46）
 • 电子工学専攻「电子工学特別講義 II」
 住友電気工業（株）常務取締役
 吉田 健一（通信・昭 39・M41）
 • 电子工学科「特別講義」
 サントリー（株）顧問
 今西 正道（電子・昭 39）
 • 电子工学科「特別講義」
 （株）日立システムアンドサービス 顧問
 山本 晃司（電子・昭 39・M41）
 • 电子工学専攻「光波电子工学」
 三菱電機（株）先端技術総合研究所 主席研究員
 藤田 輝雄（電子・昭 53・M55・D58）
 • 电子工学科「电子材料基礎論」
 松下電器産業（株）半導体社 事業本部 プロセス開発センター
 プロセスグループ先行技術開発チーム 主任技師
 林 重徳（電気・昭 57・M59・D62）
 • 电子工学科「集積回路工学」
 （株）ルネサステクノロジ 知的財産権統括部
 副統括部長兼特許部長
 藤島 一康（電気・昭 48・M50）
 • 电子工学専攻「集積回路技術論」
 （株）小松製作所 経営企画室 顧問
 島 亨（電気・昭 36）
 • 电子工学専攻「集積回路技術論」
 （株）東芝 セミコンダクター社 メモリ事業部
 主務 間 博顕（電子・昭 58・M60）
 • 情報科学研究科「コンピュータサイエンス特別講義 I」 NEL
 山下 一郎（電子・昭 44）
 • 情報科学研究科「情報科学概論」
 鳥取環境大学 教授・副学長
 都倉 信樹（電子・昭 38・M40・D43）
 • 情報科学研究科「マルチメディア工学特別講義 II」
 （株）日立製作所 ソフトウェア事業部 主任技師
 大場（山口）みち子（情報・D 平 14）
 • 情報科学研究科「マルチメディア工学特別講義 II」
 （株）富士通研究所 IT メディア研究所 所長代理
 村上 敬一（電子・昭 49・M51）
 • 情報科学研究科「バイオ情報工学特別講義 II」
 （株）日立製作所 システム開発研究所 主任研究員
 水野 浩孝（電気・昭 54・M56、情報・D 平 10）
 • 情報科学研究科「バイオ情報工学特別講義 II」
 日本電信電話（株）
 NTT コミュニケーション科学基礎研究所 所長
 菅村 昇（電気・昭 49・M51）

濬電会役員

平成15年度濬電会本部および支部役員としてご尽力頂いた方々は下記のとおりです。○印は平成15年度、新たに就任された役員です（敬称略）。また、濬電会支部としては、東京、東海、北陸、中国、四国、九州支部が活動を行っています。役員氏名の他に、本部および各支部の連絡先を付記しておりますのでご用の節はお気軽にご連絡下さい。

[本部]

会長	中西 義郎（通信・昭27）	大阪大学名誉教授
副会長		
大西 良一（通信・昭32）	三菱電機（株）	
岩川 泰而（電気・昭34）		
		（財）中国電力技術研究財団
池田 博昌（通信・昭34）	東京情報大学	
佐治 学（電気・昭35）	愛知工科大学	
永田 重幸（電気・昭36）	徳島文理大学	
○田中 祀捷（電気・昭37）	早稲田大学	
○浅田 勝彦（電子・昭38）	福井大学	
○吉野 勝美（電子・昭39）	阪大工電子	

幹事

藤岡 弘（通信・昭40）	阪大情報科学
○佐々木孝友（電気・昭42）	阪大工電気
原田 兼治（電子・昭47）	阪急電鉄（株）
○後 哲夫（電気・昭48）	
関西日本電気ソフトウェア（株）	
○河崎善一郎（通信・昭48）	阪大工通信
栖原 敏明（電子・昭48）	阪大工電子
山谷 誠（電子・昭48）	松下電器産業（株）
○田中 和浩（電気・昭49）	（株）ダイヘン
○乗松 孝好（電気・昭50）	阪大レーザ
山田登美夫（電気・昭51）	（株）東芝
山本 正弘（電子・昭51）	JR西日本（株）
西川 満（電子・昭52）	住友電気工業（株）
浜場 邦洋（電子・昭52）	関西電力（株）
堀口 彰（電子・昭52）	三菱電機（株）
○庄中 永（通信・昭54）	オムロン（株）
○鈴木 俊久（電気・昭55）	富士通（株）

塙賀 祐二（通信・昭55）	三洋電機（株）
○西村 明夫（電子・昭55）	松下電気産業（株）
高橋 成剛（通信・昭56）	西日本電信電話（株）
原田 晃一（通信・昭57）	シャープ（株）
○松本 正行（通信・昭57）	阪大工通信
○村上 匠且（電気・昭58）	阪大レーザ
○舟渡 信彦（電子・昭58）	シャープ（株）
○長谷 裕司（電気・昭59）	三菱電機（株）
○加納 隆（電子・昭59）	
	（株）日立システムアンドサービス
○佐藤 健哉（電子・昭59）	住友電気工業（株）
片山 光浩（電子・昭60）	阪大工電子
○多田 充宏（電子・平元）	関西電力（株）
○森 勇介（電気・平元）	阪大工電気
○遠藤 浩二（電気・平3）	三洋電機（株）
尾上 孝雄（電子・平3）	阪大情報科学

連絡先：〒565-0871

吹田市山田丘2-1

大阪大学大学院工学研究科電気系内

濬電会事務局 安井晴子

TEL 06-6879-7789（ダイヤルイン）

FAX 06-6879-7774

E-mail: reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp

[東京支部]

支部長

池田 博昌（通信・昭34）	東京情報大学
総会幹事団体	（株）東芝、松下電器産業（株）
幹事団体代表	（株）東芝
○上村 芳明（通信・昭48）	
柳町事業所 所長	
TEL 042-548-5553	

松下電器産業（株）

○原田 修二

パナソニックシステムソリューションズ社

技術本部 本部長

TEL 045-544-3728

事務局

（株）東芝

○酒井 敏夫（電気・昭 54）

ミッションクリティカルシステム部

TEL 042-333-2701 FAX 042-340-8028

E-mail: toshio1.sakai@toshiba.co.jp

松下電器産業（株）

○吉田 稔彦（電気・平 9）

パナソニックオートモーティブシステムズ社

オーディオビジネスユニット

純正商品開発グループ

TEL 045-939-1652 FAX 045-931-0806

E-mail: yoshida.toshihiko@jp.panasonic.com

[東海支部]

支部長

佐治 学（電気・昭35） 愛知工科大学

代表幹事・連絡先

〒456-0022 名古屋市熱田区横田 2-3-24

中部電力（株）基幹系統建設センター技術グループ

江本 邦夫（電気・昭58）

TEL 052-682-3436 FAX 052-683-5617

E-mail: Emoto.Kunio@chuden.co.jp

[北陸支部]

支部長

浅田 勝彦（電子・昭38） 福井大学

代表幹事・連絡先

〒910-8507 福井市文京 3-9-1

福井大学工学部電気・電子工学科

仁木 秀明（電気・昭 51）

TEL 0776-27-8555

[九州支部]

支部長

○田中 祢捷（電気・昭 37）

代表幹事・連絡先

〒808-0196 北九州市若松区ひびきの 2-4

九州工業大学大学院生命体工学研究科

金藤 敬一

TEL 093-695-6042

E-mail: kaneto@life.kyutech.ac.jp

[四国支部]

支部長

永田 重幸（電気・昭36） 徳島文理大学

代表幹事・連絡先

〒796-0421 愛媛県西宇和郡伊方町九町コチワキ

四国計測工業（株）伊方事業所

森田 寛（電気・昭 48）

TEL 0894-39-0477 FAX 0894-39-0686

E-mail: morita07854@yonden.co.jp

[中国支部]

支部長

岩川 泰而（電気・昭34）

中国情報システムサービス（株）

代表幹事・連絡先

〒730-8701 広島市中区小町 4-33

中国電力（株）流通事業本部 制御システム担当

○梶山 勝哉（通信・平 5）

TEL 070-5922-3005 FAX 082-523-6323

E-mail: 279601@pnet.energia.co.jp

同窓会だより

電気昭和 26 年卒同窓会

昭和 62 年より毎年実施しております阪大電気 26 年卒同窓会を下記の通り実施いたしました。

日 時：平成 15 年 11 月 20 日（火）17 時 30 分～20 時

場 所：スイスホテル南海大阪 10F 「鳳苑」

（旧 南海サウスタワー ホテル）

当日は西村、桜井両先生のご出席を頂き、総勢 14 名にて 1 年ぶりの再会を祝し、誠に楽しい一夜を過ごしました。

追伸 残念なことに、下井厚夫氏が 12 月 14 日肺炎の為逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

（幹事：栗山 宏、河崎 昭）



通信昭和 26 年卒同窓会

日 時：平成 15 年 10 月 21 日

場 所：東京 恵比寿ガーデンプレイスタワー 39F
プチモンド・ドゥ・プロバンス

出席者：写真（前列左から）保田、原、浅居、市川、長岡（後列左から）尾埜、山縣、小山、桑山、福島、保科、去来川、金田

私ども昭和 26 年の通信卒業生の同窓会は、一昨年は電気と合同で琵琶湖畔、昨年は通信だけで鳥羽・伊勢と関西で行いましたが、今年は場所を変え東京で行いました。東京近傍に住む人が多いので、できるだけ多くの方が出席願える事を期待しての同窓会を計画しましたところ、東京近傍 9 名、関西から浅居、尾埜、金田、小山の 4 君の参加もあり、写真の様に 13 名の出席を得ました。

会場のガーデンプレイスは昔の恵比寿ビールの工場の跡地ですが、現在は都心の“水”と“緑”的複合都市と称される憩いの場も兼ねた新しい東京名所の一つで、



その中心が 39 階のガーデンプレイスタワーであり、高所から東京の中心と南に向けて広く見わたせる場所です。出席の諸兄、皆さん揃って元気、話題も多く活気に富んだ会合を持つ事ができ、予定した 3 時間の会食も、瞬く間に過ぎた思いでした。

戦後間もない時代の私達同窓生、互いの年令の差も大きいが、最年少の諸君も既に 75 才を越えています。既に全員老人とも言える筈ですが、まだまだそれを感じさせない方ばかりでした。

会終了後は健脚の希望者 7 人で原宿駅を経て明治神宮を参拝し散会致しました。明年は関西で行われる予定です。本年欠席された方々も、再会を期待すると共にご健康をお祈りします。 （長岡 記）

通信旧制昭和 28 年卒同窓会

日 時：平成 15 年 5 月 20 日、21 日

場 所：母校訪問・パナヒルズ大阪（宴会、宿泊）
出席者：五十嵐、伊藤、岩本（邦）、内橋、裏、熊谷、佐川、田口、立川、角尾、富沢、内藤、平尾、福井、堀部、松岡（俊）、味村、藪納

今年は 50 周年記念同窓会ということで関東、関西合併、さらに新制通信 28 年卒の人たちとの交流を兼ね合同で母校訪問から始まりました。1 時半の銀杏会館集合の頃から天候急変、雷鳴とどろく豪雨になり遅刻するもの続出。電気系講義室で小牧先生の国立大学法人化の話などを伺い、電波干渉計、携帯 IP 実験などを見学、さらに 300 万ボルト電子顕微鏡前で裏さんの苦心談に聞き入り有意義な時間を過ごしました。

6 時、パナヒルズでの宴会は物故者、病中者の回復祈念の黙祷の後、お決まりの現況紹介。今尚 160 の仕

事に關係し超多忙の熊谷さん、銘酒に目がない酒豪の人、85歳までゴルフを続けると宣言する人、昔話と健談義に大いに盛り上りました。

中締め後、カラオケサロンに移動、歳相応の謙譲の美德も薄れ、マイクを奪い合い所定時間をオーバーする始末。旧制高校時代の放歌吟詠の性が甦ったのか。願わくばこの元気、いつまでも続かんことを。

翌日は絶好の好天に恵まれ、有志によるなにわ歴史散歩コース。阪大の源流の適塾、新装移転の歴史博物館、NHK・BK、仁徳稟、堺博物館を見学、蘊蓄を語り合いました。

(富沢清 記)



通信新制第一回生（昭和 24 年入学組） 卒業五十年同窓会

今では知る人も少なくなってしまった学制改革の嵐に揉まれ、新制大学の第一回生として入学した我々も卒業して早半世紀経ちました。有意義な同窓会をと、我々大半が知らない吹田キャンパスを訪れることがありました。現在の同窓生 37 名の約 3 分の 2 にあたる 26 名が新大阪駅集合の後、吹田キャンパスへ。そこでは構内立ち入りの許可等お世話になった湯電会事務局の安井さん始め小牧、塩澤、河崎、馬場口教授達のお出迎えを受け恐縮しました。玄関口で同じ年に卒業した旧制の人々 15 名と共に記念撮影も、そして見学。その後、小牧教授の「大学の現状とこれからの大学の法人化」の講話を久しぶりに受講しました。一時どうなることかと思われた豪雷雨も幸い嘘のように止み、旧制の人々と別れて吹田キャンパスを後にしました。湯の花温泉の亀岡ハイツでは予定時刻の 6 時半には宴会が始まりました。歳のせいで酒量が落ちたといいながらもビールに酒に焼酎と大いに気炎を上げ学生時代と変わらぬ宴は更け、昨年同様二次会は碁を打つもの、それを観戦するもの、学生時代の想い出に花を咲かせるもの、時局を論ずるもの、またカラオケにうつつを抜



かすもので時間を忘れ、歳を忘れてほとんどが午前様になってしまいました。

翌 21 日は、残った 21 名で保津峡下り、船を下りた嵐山の渡月亭で昼食の後、二尊院で院主の高説を拝聴と有意義だった同窓会を終え、2 年後の再会を約し散会しました。

同窓会出席者：石原、岩原、浦野、大儀、大西、小田、川地、塩崎、下坂、末田、大門、田中、田原、仲井、鍋島、萩原、東島、藤原、二木、古川（吹田キャンパスのみ）、北條、細馬、松井、溝口、三宅、森岡、安田

(松井 記)

電気昭和 32 年卒同窓会

我々は 2、3 年に一度同窓会を行ってきましたが、今回は 10 月 31 日、明石海峡眼前のホテル舞子ビラ神戸に集いました。好天に恵まれ、久方ぶりに互いの健在振りをたたえつつ愉快なひとときを過ごすことが出来ました。できるだけ大勢の参加を願って早くから予告を行いましたが、関東からの 3 名を含め 15 名の参加を見ました。我々の会員数は当初の 40 名から 6 名の方が既に他界され、加えて 3 名の住所が不明で実質



31名の構成ですが、今回は半数の参加となつたのであります。

恒例となりました細川君のビデオ受賞作品の披露とか大川君の運命交響曲の名（迷）解説もあり彼らの多才振りに驚きました。我々に残された時間は刻々短くなつていくのでありますが、人生の更なる充実に向かって最後まで努力を続けるべしとの気持ちが高まつたひとときがありました。翌11月1日も素晴らしい快晴となり、朝食後、次回同窓会での再会を期して散会しました。参加者は、赤井、今井、今北、大川、川端、栗林、坂本、田中、西川、福原、細川、堀内、村岡、目見田、横畠です。

（幹事：今北 稔、西川元夫）

昭和37年卒電子工学科 (第1回生) 卒業40周年記念同窓会

ご報告が大変遅くなりましたが、題記につきご報告致します。2003年3月8日および9日に、電子工学科の第1回生が卒業40周年の記念として、同窓会を開催しました。参加者は総勢25名。場所は熱海。プログラムは3部構成で、先ず、3月8日の正午に熱海駅に集合しMOA美術館を鑑賞、夜は松楽荘にて宴会、翌日は希望者によるゴルフとバラエティに富んだプログラムでした。美術館へは16名、宴会への参加は25名、ゴルフは10名と予想以上に多くの方々が参加しました。

卒業以来久しぶりに会つた方も多く、最初に違和感を感じていた人達もすぐに学生時代に戻つて歓談し、旧交を暖めることができました。すでに退職して悠々自適の人、まだ現役で頑張っている人など、様々です。次回、元気な姿での再開を期して散会しました。この季節としては、暑いくらいの好天に恵まれ本当に良い思い出を作ることが出来ました。その思い出を残すため、アルバムも作成しました。

（40周年記念同窓会幹事代表 蒲生健次）



卒業50周年記念文集「NEOCOMM 2003」
通信工学科昭和28年卒新制第1期生の方々による卒業50周年記念文集「NEOCOMM 2003」が滝電会事務局に届けられております。ご覧になりたい方は、お気軽に本会事務局へご連絡下さい。

濡電会だより

濡電会ホームページのご案内

平成 12 年度から開始した濡電会ホームページでは、本会の各種活動内容をより積極的に会員の皆様にお伝えするとともに、皆様の利便性の向上を目指して情報公開に励んでおります。昨年 6 月より大阪大学工業会（会長：熊谷信昭 元総長）のホームページであるテクノネットウェブ（<http://www.osaka-u.info/>）との連携を進めており、下記アドレスで 365 日 24 時間アクセス可能です。

<http://www.osaka-u.info/~reidenkai/>

主な内容と致しましては、新着情報、会長挨拶、濡電会からのお知らせ、会則、濡電会ニュース、母校のニュース、会費納入方法、個人情報の変更、濡電会役員一覧、関連リンク等となっております。特に、会費納入方法のページで年会費自動振込制度の申込みを依頼することや、個人情報変更のページで異動等の情報を濡電会事務局に知らせることなどが可能になっており、ご好評頂いております。また、各学科の卒業年度別会費納入情報も公開しております。さらに、各支部ホームページへのリンクも作成しております。上記テクノネットウェブとの連携を有効活用するためのいくつかの試みも考案中であり、今後更なる利便性向上に努めたいと考えております。

益々の充実化を図るため皆様のご意見を下記担当幹事まで頂戴できれば幸でございます。（ホームページからもご意見を送付可能です）

（尾上孝雄 onoye@ist.osaka-u.ac.jp（電子・平3）記）

平成 15 年度総会・講演会・懇親会

平成 15 年度の総会・講演会は 6 月 6 日（金）大阪梅田新阪急ホテルにおいて 143 名の参加を得て開催された。総会は午後 6 時 30 分より栖原敏明幹事（電子・昭 48）の進行役のもとで行われた。中西義郎会長（通信・昭 27）の挨拶の後、平成 14 年度事業報告が小牧省三総務幹事（通信・昭 45）から、また平成 14 年度会計報告が藤岡弘会計幹事（通信・昭 40）から行われ、それぞれ承認された。

続いて中西会長から、新副会長（九州支部長）に田中祀捷氏（電気・昭 37）、同新副会長（北陸支部長）に浅田勝彦氏（電子・昭 38）、同新副会長に吉野勝美氏（電気・昭 39）の推薦と、新幹事 17 名の指名が行

われた。拍手で承認の後、新副会長、各新幹事の自己紹介が行われた。引き続き藤岡弘新総務幹事（通信・昭 40）から平成 15 年度事業計画が、佐々木孝友新会計幹事（電気・昭 42）から平成 15 年度予算の説明が行われ、いずれも拍手で承認された。さらに濡電会正会員の定義に関して、会則第 4 条(1) の変更（「情報科学研究科」を含める）が提案・承認された。また、会費納入に関して会則（細則）の変更が提案・承認され、総会を終了した。

総会に先だって、午後 5 時から講演会が開催された。塩澤俊之教授（通信・昭 39）から「電磁波の人体への影響とその定量的評価について」の題目で、さらに引き続いて藤岡弘教授（通信・昭 40）から「LSI テスティング 昨日・今日・明日」の題目でご講演を頂いた。両教授の長年の研究教育活動による大変興味深い内容の有益な講演であった。

総会の後は別室に移り、懇親会が藤岡弘総務幹事の司会のもとで開催された。中西会長の挨拶の後、熊谷信昭名誉教授（元総長）（通信・昭 28 旧）、嵩忠雄名誉教授（通信・昭 33）から祝辞を頂戴した。引き続いて、各支部から頂戴した祝電の披露の後、櫻井良文名誉教授（電気・昭 18）の音頭で乾杯し、賑やかな歓談のひとときを楽しんだ。最後に吉野勝美副会長の発生のもと万歳三唱を行い、盛会裡に散会となった。

（栖原敏明（電子・昭 48）記）

平成 15 年度見学会

大阪市内でも紅葉が本格的になった 11 月 6 日に第 21 回濡電会見学会が行われた。今回は三洋電機のソーラーアークとデジタルカメラ工場の見学を中心に、往路では彦根城博物館で行われていた特別企画展「井伊の赤備え 一彦根藩の甲冑一」を見学することになった。

夜半から降っていた雨も出発 2 時間前には何とかあがり、定員一杯の 40 名の参加者を乗せたバスは予定通り朝 9 時に新大阪を出発した。今回は電気 22 年卒業の同窓会も並行して行われ、満員の状況であった。名神高速に乗り巡航するようになってから濡電会会長中西義郎（通信・昭 27）のご挨拶の後、しばし歓談を楽しみながら彦根城博物館へと向かう。おりしも彦根城博物館では特別企画展が開催されていて、井伊家

伝来の多数の朱具足を見学することができた。あいにく彦根城博物館の入り口の橋が掛け替え工事中で、思わぬ遠回りをしなければならなくなり、足の不自由な方には申し訳ないことになってしまった。

彦根キャッスルホテルで昼食の後、10分ほどの遅れで岐阜県安八町にある三洋電機岐阜事業所に到着した。岐阜事業所には日本最大の生産量を誇るデジタルカメラ工場と世界最大の太陽光発電設備ソーラーアーク、太陽電池科学館が併設されている。見学に先立ち、三洋電機コンシューマー企業グループDIソリューションズカンパニーの小野寛社長（通信・昭42）他に会社の概要、ソーラーアーク詳細、デジタルカメラ製作工程の概略の説明をしていただく。

ソーラーアークは全長315m、高さ37mの巨大なパネルに5046枚の太陽電池パネルを貼り付けたもので、全体の型は未来に船出する「箱船」をイメージしたものとなっている。最大630kWの発電能力があり、年間発電量は53万kWhに相当する。これは炭素にして95トンが節約される。発電された電気は6600Vに昇圧され、背後の工場で使用されることである。

デジタルカメラ工場ではワイヤレスイヤホーンが全員に配布され、多人数にも関わらず、説明を明瞭に聞くことができた。日本最大の生産量を誇る工場であるにも関わらず、組み立てはほとんど手仕事であったのは現場に疎い筆者にとって新鮮な驚きであった。デジタルカメラはモデルチェンジが早く、自動化がペイしないとの説明に納得する。

最後に細かい配慮と準備をしていただいた三洋電機（株）の塩賀祐二幹事（通信・昭55）、遠藤浩二幹事（電気・平3）、直々に御説明いただいた小野寛社長、現地での手配、案内などを担当いただいた大森直美統括部長、角地弘行課長とお手伝いいただいた十余名の現地スタッフの皆様、濁電会事務局の安井晴子さんに感謝申し上げたい。

（乗松孝好（電気・昭50）、村上匡且（電気・昭58）記）

平成15年度電気系卒業祝賀・謝恩会

平成15年度電気系卒業祝賀会は平成16年3月25日（木）卒業式当日の午後6時から、千里阪急ホテル・仙寿の間において開催された。卒業生数372名、このうち社会人として大学を出てゆく人が184名で、総出席者数は、ご来賓、電気系職員、濁電会役員の方々をあわせて全430名にもおよんだ。

式典の部は佐々木孝友幹事（電気・昭和42）の司会で進められ、まず最初に濁電会会长・大阪大学名誉教

授の中西義郎先生（通信・昭27）から祝詞を戴いた。ついで大阪大学元総長・大阪大学名誉教授の熊谷信昭先生（通信・昭28旧）、濁電会元会長・大阪大学名誉教授の櫻井良文先生、（株）NTTドコモ関西・代表取締役副社長の西邑省三様のご三名から来賓の祝詞を戴いた。熊谷先生からは、特に濁電会、大阪大学工業会等の同窓会組織を大切にして欲しいというお話があった。最後に電気系教官代表として、電子情報エネルギー工学専攻教授の北山研一先生から祝詞を戴いた。このあと、各支部からの祝電（東京支部長・池田博昌先生、東海支部長・佐治学先生、北陸支部・浅田勝彦先生、中国支部長・岩川泰而様、四国支部長・永田重幸先生、九州支部長・田中紀捷先生）の披露があり、パーティーに移った。

パーティーの部は松本正行幹事（通信・昭57）の司会ですすめられた。まず、濁電会副会長・三菱電機（株）社夕の大西良一様（通信・昭32）のご発声で乾杯し、歓談に移った。宴もたけなわの頃、中西会長より楠本賞渡邊賢治君（情報システム工学科目）、工学賞の臼井亮二君（電気工学科目）、大田剛史君（通信工学科目）、串間宇幸君（電子工学科目）、および賞の次点者の久湊直人君（電気工学科目）、松井真奈美君（通信工学科目）、武野祐介君（電子工学科目）、篠原昌子君（情報システム工学科目）への記念品の授与があった。このあと、恒例の福引き、お餅つきが賑やかに行われ、ついで卒業生の代表として電子情報エネルギー工学専攻・博士前期課程の領家弘典君から教官および濁電会諸先輩への感謝と将来への決意が述べられた。最後に濁電会副会長・電子工学専攻教授の吉野勝美先生（電気・昭39）の音頭で万歳三唱し、めでたく、祝賀・謝恩会はお開きとなった。

毎年大変な人数で会場が手狭なため、今年は仙寿の間の、前のロビーにテレビや食卓などを置き、会場の拡大を計った結果、比較的ゆったりと会を過ごすことができた。

ご臨席賜り、祝辞を戴きましたご来賓の方々に厚くお礼申し上げます。また、ご参加戴き、卒業を祝っていただきましたご来賓の濁電会元会長・大阪大学名誉教授の藤井克彦先生（電気・昭28旧）にお礼申し上げます。

最後に、ご多用中にもかかわらず、臨席戴きました電気系職員の方々にお礼申し上げます。濁電会事務局の安井晴子様にはいつもながら献身的に会の準備にあたっていただき、また電気系秘書の方々、一部の学生諸君には準備・受付業務などをお手伝い戴きました。これらの方々に心よりお礼申し上げます。今年も快く

記念品、福引きの景品を寄贈戴きました(株)日立製作所、(株)東芝、オムロン(株)、関西電力(株)、三洋電機(株)、シャープ(株)、住友電気工業(株)、(株)ダイヘン、西日本旅客鉄道(株)、NECシステムテクノロジー(株)、NTTグループ各社(西日本、ドコモ、ファシリティーズ、インフラネット、コムウェア、マーケティングアクト)、阪急電鉄(株)、富士通(株)、松下電器産業(株)、三菱電機(株)、(株)ルネサステクノロジーの各社様に厚く、お礼申し上げます。

(佐々木孝友(電気・昭42)記)

平成15年東京支部総会報告

平成15年濁電会東京支部総会が4月18日午後6時より東京・南青山のホテルフロラシオン青山にて開催されました。ご来賓として、中西義郎会長、尾崎弘元会長、藤井克彦元会長、大西良一副会長、小牧省三総務幹事、河崎善一郎教授、事務局の安井晴子様、また、大阪大学工業会から会副会長の妹島五彦様にご臨席頂きました。基礎工学部からのご参加10名を含め、総勢131名の盛会がありました。

今回は、総会共同幹事のNHK 殿ご尽力により、「ゆとり・ユーモア・帰りは元気～歌謡番組の舞台裏」と題した宮本隆治アナウンサー講演会を実施致しました。アナウンサー歴30年のご経験に基づいた、大舞台で緊張しないコツを紹介いただき、職場等では得られないノウハウを得ることができました。さらに、生番組さながらの会場とのやり取り、ものまねを交えた番組エピソードなど、予定時間枠を延長してご講演頂き、爆笑のうちに日頃の疲れも癒されたようあります。

続く懇親会では、まず池田博昌支部長から、卒業生の世代間を結ぶ濁電会の活動をさらに発展させ、後進のフォローを進めたいとの挨拶があり、中西義郎会長からは、わが国の活力源泉は科学技術であり、産学協同推進へも濁電会をさらに役立てたいとのお言葉を頂きました。続いて藤井克彦元会長からは、新しい流れを創出し、IT関連産業によるデフレ克服を目標に頑張ろうというご挨拶を頂きました。予定よりやや遅れて到着されるというハプニングもありましたが、無事、尾崎弘元会長のご発声にて乾杯。和やかな歓談のなか、小牧省三先生から学科編成変更、法人化等についての大学近況をご報告いただき、河崎善一郎先生からは我慢強いことが大事というお話を頂きました。大阪大学工業会副会長妹島五彦氏からは、漢詩を交えたご挨拶を頂きました。会も後半へ進行し、bingoゲーム(景

品(株)日立製作所提供)ではおおいに盛り上がりを見せました。会終盤、本年総会幹事会社代表の毛利勝夫氏(日立)ならびに、山田明人氏(NHK)から本年推進の経緯説明など挨拶があり、引き続き次回幹事会社代表の上村芳明氏(東芝)、原田修二氏(松下、挨拶文紹介)から来年に向けた力強いご挨拶を頂きました。最後に、大西良一副会長の万歳三唱をもって総会全予定を盛会裏のうちに無事終了致しました。

(野上博志(電子・昭60)記)



平成15年度東海支部総会・見学会報告

9月23日(火)、平成15年度濁電会東海支部総会・見学会が開催されました。今回は、トヨタ自動車株式会社の高岡工場にて、自動車量産ライン見学の後、同トヨタ会館をお借りしての総会、フォレスタヒルズへ会場を移して懇親会が行われました。

秋晴れの中、ご来賓として、濁電会会長の中西義郎先生、元会長の櫻井良文先生、副会長の大西良一様、同副会長の吉野勝美先生、総務幹事の藤岡先生、そして事務局の安井晴子様らをお迎えし、開催にあたってご協力いただいたトヨタ自動車OBの木村兵二様(通信・昭32)、佐治学支部長(電気・昭35)をはじめ昭和13年卒から若手まで、総勢33名の盛会となりました。

総会に先立ち行われた見学会では、自動車組み立てラインの立体交差に圧倒されました。広い工場建家の地上から2階、さらに3階へと、組立中の車体やドアが縦横に移動します。1日当たり700台近くを生産する(1台/2~3分)同工場では、必要以上の部品在庫を持たないことで有名な「カンバン方式」や、部品組付の度にドアの開閉を行わなくてもよい「ドアレス工法」(ドアとボディを別々に組み立てる。)など、改善制度と共に生まれた様々な生産技術についての説明を受けました。ところで、きびきびと作業を行う作業

員数は、広い敷地の割に相当少人数に見えました。各国で生産活動を展開する同社ですから、ここで鍛えた生産技術もきっと各国へ提供していることでしょう。そのやり方を世界中の企業が導入していることは今さら説明するまでもありません。

続いて総会では、中西会長から、「景気は回復基調とはいえ、技術開発の実感としてはどうだろうか。将来を見据えた本当の改革が、今まさに求められている。存分に力量を發揮してもらいたい。」との激励のお言葉を頂戴いたしました。最後に、フォレスタヒルズに移動しての懇親会では、支部最長老の吉本 弘様（電気・昭 13）の乾杯音頭の後、元会長の櫻井先生を始めとする皆様の近況をご披露いただき、最後に岡本明様（電気・昭 26）のご発声による万歳三唱で再開を誓い合い、お開きとなりました。

最後に、見学会、総会および懇親会会場のお世話をいただいた、芳澤健一幹事（トヨタ自動車、電子・昭 56）に厚く御礼申し上げます。

（江本邦夫（電気・昭 58）、高田 亨（電気・昭 60）記）



平成 15 年度北陸支部総会・見学会報告

平成 15 年度（第 14 回）北陸支部総会は、9 月 6 日（土）、福井県鯖江市にある（株）ホリカワで開催された。本部より、櫻井良文元会長、中西義郎会長、大西良一福会長、藤岡弘総務幹事、事務局の安井晴子様をご来賓としてお迎えし、総勢 24 名の参加となった。

総会は、浅田支部長の挨拶で始まり、中西会長にご挨拶いただいた後、平成 14 年度の事業報告、会計決算報告ならびに今年度の事業計画、予算案の説明があり承認された。続いて、藤岡総務幹事より、本部の報告をしていただいた。本部では現在、新しい会員名簿を作成中で、11 月末には会員の元に届けられるということである。

総会に引き続き、（株）ホリカワの工場を見学させていただいた。ここは、支部会員の高木氏が社長を務めるメガネフレームの一貫生産工場で、その規模は日本でトップ、世界でも常にトップ 5 に名を連ねているということである。ここでは企画・デザインから出発し、試作、設計を経て製造、出荷検査に至るまで、すべての工程を担当している。工場内には比較的小型で実際に様々な工作機械が並び、その作業の多様さ、細かさには驚かされた。総工程数は 100～250 にのぼることである。

（株）ホリカワをチャーターバスで出発し、福井市街地から 10 km 東南に位置する一乗谷朝倉氏遺跡を観光した。織田信長に滅ぼされた後 400 年以上経つてから朝倉義景館跡をはじめ武家屋敷、町屋、庭園等がほぼ完全な形で発掘され、一部復元されている。すぐ近くには、佐々木小次郎が燕返しを編み出したと言われる一乘滝もあり、ここも立ち寄った。しばし武士の世に思いをめぐらせた後、福井市街に向かった。

懇親会はJR福井駅に近い料亭“やまもとや”にて開催された。浅田支部長の挨拶、櫻井元会長の乾杯の音頭で会が始まり、自己紹介、近況報告をしあい、懇親を深めた。また今回、来賓の方々への記念品として準備された、朝倉氏館の唐門が写し出された特製のビスコテック額装が披露された。これは支部会員である（株）セーレンで専務取締役を務める島田氏に手配していただいたもので、彼の開発したインクジェット方式の染色技術によるものである。

最後に、総会と見学会でお世話いただきました（株）ホリカワの関係者の方々にお礼申し上げます。

（仁木秀明（電気・昭 51）記）



平成 15 年度九州支部総会・見学会報告

濱電会九州支部は 1992 年の発足以来、九州各県で活躍中の会員の皆様が参加しやすいよう九州各地に場

所を移して総会を行ってきました。今回は数を重ねること 12 回目の総会になり、一回りして福岡近郊の佐賀県唐津で行うことになりました。

今回は、本部より中西 義郎 淳電会会長、櫻井 良文元会長、藤岡 弘 総務幹事、安井 晴子事務局殿にお出で頂き、支部からは田中 祀捷（気 S37）、河村 寿三（気 S29）、須川 嘉幸（気 S37）、金藤 敬一（気 S46）、笛尾 勤（子 S47）、渡辺俊治（通 S50）、吉野 美明（気 S51 修）、幡司 明（通 S51 博）、三谷 康範（気 S56）、服部 励治（気 S61）、小森 望充（基礎工電気 S56）が出席しました。

総会・懇親会の地となった唐津は、古くから朝鮮や大陸との交通の要地で、「唐」に港を意味する「津」を付けたのが由来とのこと。虹ノ松原、唐津城に代表される風光明媚なところです。

午後 2 時半に九州電力保養所の舞鶴荘全員が集合し、近くにある河村美術館にて、日本画の青木繁・岸田劉生・小磯良平・黒田清輝や、陶器の鑑賞をしました。また、5 分ぐらい歩いたところの唐津神社の近くにある曳山展示場まで足を伸ばし、唐津くんちでつかわれる曳山（ひきやま）を見学しました。午後 4 時半より保養所の一室にて総会を始めました。田中支部長挨拶の後、中西淳電会会長の御言葉を頂き、九州支部の事業と会計報告を承認し、閉会しました。引き続く講演会では藤岡先生から母校の最近の活動状況についての御話と九州工業大学金藤先生より「九州の窯元と焼き物」として先生のご趣味である焼き物についての御話をいただきました。

その後、同保養所にて懇親会が行われ、会員同士の尽きない会話で盛り上りました。会場の手配では九州電力吉野氏にお世話になりました。この場を借りて謝意を表します。

来年度以降も、会員皆様のご参加と協力をお願いいたします。

（服部励治（電気・昭 61）記）



平成 15 年度中国支部総会報告

淳電会中国支部は、11月22 日（土）、本部より桜井 良文元会長、中西義郎会長、総務幹事藤岡弘先生、事務局安井晴子様をご来賓としてお迎えし、さらに基礎工電気の卒業生 3 名にもご参加いただき、総勢 22 名の参加者を得て、東広島市の中国電力（株）技術研究センターおよび賀茂泉酒造（株）において見学会を、同じく東広島市の東広島シティホテルで支部総会を実施しました。

当日はまず、JR 広島駅に集合後、バスにて東広島市の中国電力（株）技術研究センターに移動し、平岡技術研究センター所長及び広報担当の方のご案内で見学をしました。当センターは、広島中央サイエンスパーク内に立地し、広島大学に隣接しているという好条件を活かして、一層、産学官連携を推進するとともに、地域振興のための技術支援・協力、情報提供を行い、「開かれた技術研究センター」を目指しており、その研究内容について紹介を頂きました。

続いて賀茂泉酒造（株）の酒蔵を見学して、杜氏から酒造りの工程について興味深い説明を聞きながらお酒の香りを楽しく吸い込ませて頂きました。

見学会終了後、バスにて東広島シティホテルに移動し、支部総会を開催しました。総会は岩川支部長の挨拶から始まり、中西会長からご挨拶をいただき、藤岡先生から母校の近況および淳電会の実情についてご紹介頂きました。

続いて議事に入り支部の平成 14 年度の事業報告について全会一致で承認されました。

最後に参加者全員で記念写真撮影を行い、総会は無事に終了しました。

その後、懇親会に移り、桜井元会長の乾杯の音頭により懇親に入りました。参加者全員の自己紹介・近況報告を含め瞬く間に時間が過ぎ、最後に白髭様の乾杯の音頭で来年度の再会を期しての散会となりました。



最後に、土曜日にもかかわらず見学会での案内を頂いた中国電力株式会社技術研究センターの方に紙面を借りてお礼申し上げます。また、中国支部の会員の皆さんに、ご都合が合いましたら来年度の支部総会に是非ともご参加下さいますよう、お願ひ申し上げます。

(梶山勝哉(通信・平5)記)

平成15年度濁電会ゴルフ例会報告

濁電会ゴルフ例会は、平成15年度で97回の開催を誇る、濁電会内の親睦を図る伝統的なゴルフコンペで、昨年度も春秋の2回、三田市郊外の武庫ノ台ゴルフコースで開催されました。

コンペは、一般の部とシニアの部(満年齢65才以上)に分けて優勝を競われています。昨年度の結果は、以下のとおりとなりました。

	第96回	第97回
開催日	H15.6.21(土)	H15.11.23(日)
参加者数	4組13名	2組8名
一般の部 優勝	中川興史(電42) gross 82(スコア) H.C. 11 Net 71	森勇介(電元) gross 84(スコア) H.C. 7 net 77
優勝杯 取り切り杯	中川興史(電42) 成績は同上	西山昌(通27)
シニアの部 優勝	池田敬造(電16) gross 110 H.C. 14 net 96	gross 118 H.C. 24 net 94

第96回は、白川さんのご厚意により、一般の部の優勝杯取り切り杯も同時に開催し、第72回以降の歴代優勝者7名に参加していただき、梅雨期の晴天のもと、最後まで楽しくプレイしていただきました。一般の部ではベスグロも獲得された中川さんが、シニアの部では池田さんがそれぞれ優勝されました。同時に開催いたしました優勝杯取り切り杯も、一般の部を制した中川さんの優勝となりました。第97回は、美しい紅葉を眺めながらのコンペとなりました。一般の部では前回優勝者の中川さんを抑え、ベスグロも獲得され

た最年少の森さんが、シニアの部では西山さんがそれ優勝されました。

ゴルフを終えた会食の場では、表彰式の後、両優勝者をはじめ、各賞受賞の皆さんからコメントを頂戴し、ゴルフの話で盛り上がる中、次回は同期の友人を誘い合わせのうえ、出席を誓い合い、三々五々帰途につきました。

今年度につきましても昨年度同様、6月21日(日)、11月23日(火)の2回、武庫ノ台ゴルフコースで開催を予定しており、それぞれ7組(28名)ご用意しております。お申し込みは、はがきにお名前、卒業学科、卒業年次、連絡先(郵便番号、住所、電話番号)をご記入の上、開催1ヶ月前までに濁電会事務局へご連絡下さい。同期の方と一緒に回るなど、ご希望がございましたら、はがきにその旨、追記していただければ極力配慮させていただきますので、お誘い合わせの上、奮ってご参加いただけますようご案内いたします。ご参考までに、参加費は27,000円、先着28名様までお受けさせていただきます。

(多田充宏(電気・平元)記)



お願い

ご住所・ご勤務先などが変更になられた方は、事務局まで隨時ご連絡くださるようお願いいたします。変更のご連絡は同封いたしました総会の出欠届、平成15年11月に発行いたしました「濁電会会員名簿」に綴じ込みの「訂正カード」、またはファックス、電子メールでも結構です。また、濁電会ホームページの「個人情報の変更」からも変更が可能です。

会員の受賞の情報、同窓会の開催記事などがございましたら、併せて事務局までお知らせください。出来る限り、本会誌に掲載させていただきます。

ご 寄 付

平成 15 年度には以下の方々からご寄付を頂いております。特に、平成 15 年 11 月の名簿発行に際しまして、多くの会費免除の方々（大学学部卒業時から 50 年を経過した会員）からご寄付を頂きました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

見学会補助

三洋電機（株）殿 ￥129,213

定年退官教授ご寄付

森永 規彦 様（通信・M 昭 40） ￥100,000
白川 功 様（電子・昭 38） ￥100,000

一般・名簿ご寄付

永田 潔	様（電気・昭 3）	￥4,000
越智 兼好	様（電気・昭 4）	￥4,000
草野 光男	様（電気・昭 6）	￥3,000
遠藤 常忠	様（電気・昭 13）	￥4,000
新林 茂	様（電気・昭 13）	￥4,000
東野 俊一	様（電気・昭 15）	￥4,000
小池 吉郎	様（電気・昭 16 後）	￥4,000
松岡 正信	様（電気・昭 16 後）	￥4,000
宮川 宗就	様（電気・昭 16 後）	￥4,000
大木 正路	様（電気・昭 17）	￥4,000
奥田 滋	様（電気・昭 17）	￥4,000
谷口 義雄	様（電気・昭 17）	￥4,000
藤田 正	様（通信・昭 17）	￥4,000
櫻井 良文	様（電気・昭 18）	￥4,000
平山 照行	様（電気・昭 18）	￥4,000
山田 正保	様（電気・昭 18）	￥4,000
原田 安雄	様（通信・昭 18）	￥10,000
村松 金也	様（通信・昭 18）	￥4,000
東 弘信	様（電気・昭 19）	￥4,000
野村寿太郎	様（通信・昭 19）	￥4,000
齋藤 博	様（電気・昭 20）	￥4,000
沢本 稔	様（電気・昭 20）	￥5,000
岡田 次郎	様（通信・昭 20）	￥4,000
九里 聖敏	様（通信・昭 20）	￥4,000
後藤田 昇	様（電気・昭 21）	￥4,000
小門 博	様（電気・昭 21）	￥4,000
西谷 敏郎	様（電気・昭 21）	￥4,000
來住 徹	様（通信・昭 21）	￥4,000
泉 逸夫	様（電気・昭 22）	￥4,000

小林啓次郎	様（電気・昭 22）	￥20,000
西野 博二	様（電気・昭 22）	￥4,000
小川 達雄	様（通信・昭 22）	￥4,000
近 晃一郎	様（通信・昭 22）	￥4,000
中尾 五郎	様（通信・昭 22）	￥4,000
松村 博	様（通信・昭 22）	￥4,000
赤川 淳	様（電気・昭 23）	￥4,000
太田 義一	様（電気・昭 23）	￥4,000
岡田 昌治	様（電気・昭 23）	￥4,000
金澤 隆	様（電気・昭 23）	￥4,000
佐伯 親謙	様（電気・昭 23）	￥4,000
中山 茂	様（電気・昭 23）	￥4,000
正木 勇二	様（電気・昭 23）	￥4,000
三上 彦三	様（電気・昭 23）	￥4,000
柳生 光男	様（電気・昭 23）	￥4,000
山中千代衛	様（電気・昭 23）	￥4,000
北村 栄喜	様（通信・昭 23）	￥4,000
庄司菊太郎	様（通信・昭 23）	￥4,000
高橋 保徳	様（通信・昭 23）	￥4,000
横田 誠介	様（通信・昭 23）	￥4,000
荒巻 恒士	様（電気・昭 24）	￥10,000
市村 幸治	様（電気・昭 24）	￥4,000
幸田 明	様（電気・昭 24）	￥4,000
佐内 重正	様（電気・昭 24）	￥4,000
柴田 俊一	様（電気・昭 24）	￥4,000
中川 隆二	様（電気・昭 24）	￥4,000
古沢 敏雄	様（電気・昭 24）	￥4,000
岡 敏一郎	様（通信・昭 24）	￥5,000
業天 正文	様（通信・昭 24）	￥4,000
西口 克巳	様（通信・昭 24）	￥4,000
長谷川 巍	様（通信・昭 24）	￥4,000
村田 保	様（通信・昭 24）	￥4,000
岩田淳三郎	様（電気・昭 25）	￥100,000
金子 壽三	様（電気・昭 25）	￥4,000
楠田 哲三	様（電気・昭 25）	￥5,000
八杉 文夫	様（電気・昭 25）	￥4,000
石原 嘉夫	様（通信・昭 25）	￥2,000
角所 收	様（通信・昭 25）	￥4,000
黒川 善治	様（通信・昭 25）	￥5,000
高岸 宗吾	様（通信・昭 25）	￥4,000
竹内 信雄	様（通信・昭 25）	￥4,000
中村 勝吾	様（通信・昭 25）	￥4,000
伯田 宏	様（通信・昭 25）	￥4,000
三尾 栄司	様（通信・昭 25）	￥4,000
北村 雅義	様（電気・昭 26）	￥4,000
絹川 泰正	様（電気・昭 26）	￥4,000

栗山 宏 様 (電気・昭 26)	¥4,000	丹羽 正信 様 (電気・昭 28 新)	¥4,000
杉岡 稔 様 (電気・昭 26)	¥5,000	古田 巧一 様 (電気・昭 28 新)	¥4,000
対尾準三郎 様 (電気・昭 26)	¥4,000	山田 正 様 (電気・昭 28 新)	¥4,000
永田敬太郎 様 (電気・昭 26)	¥5,000	末田 正 様 (通信・昭 28 新)	¥4,000
三宅康一郎 様 (電気・昭 26)	¥4,000	田中 宏 様 (通信・昭 28 新)	¥5,000
宮本 利典 様 (電気・昭 26)	¥4,000	鍋嶋 寿 様 (通信・昭 28 新)	¥4,000
浅居喜代治 様 (通信・昭 26)	¥4,000	東島 隆治 様 (通信・昭 28 新)	¥5,000
市川 洋 様 (通信・昭 26)	¥4,000	藤原 謙一 様 (通信・昭 28 新)	¥4,000
佐藤 義信 様 (通信・昭 26)	¥3,000	松井 孝雄 様 (通信・昭 28 新)	¥4,000
錦織 亨 様 (通信・昭 26)	¥5,000	三宅 晨允 様 (通信・昭 28 新)	¥4,000
藤原 潤一 様 (通信・昭 26)	¥5,000	秋山 玄雄 様 (電気・昭 29)	¥5,000
保科 三郎 様 (通信・昭 26)	¥4,000	森本 林 様 (電気・昭 29)	¥4,000
山縣 保 様 (通信・昭 26)	¥4,000	江頭 健 様 (通信・昭 29)	¥4,000
岩崎 雄一 様 (電気・昭 27)	¥4,000	小笠原脩夫 様 (通信・昭 29)	¥10,000
末内 潔 様 (電気・昭 27)	¥4,000	岡田 安弘 様 (通信・昭 29)	¥4,000
光藤 裕之 様 (電気・昭 27)	¥4,000	岡村 道夫 様 (通信・昭 29)	¥4,000
江浦 俊夫 様 (通信・昭 27)	¥4,000	久保 理一 様 (通信・昭 29)	¥4,000
尾島 義朗 様 (通信・昭 27)	¥2,000	洲崎 薫 様 (通信・昭 29)	¥4,000
要 祐一 様 (通信・昭 27)	¥4,000	土橋 英生 様 (通信・昭 29)	¥4,000
高井 昭二 様 (通信・昭 27)	¥4,000	中原 一郎 様 (通信・昭 29)	¥3,000
中西 義郎 様 (通信・昭 27)	¥10,000	中村 悟 様 (通信・昭 29)	¥4,000
西村 元一 様 (通信・昭 27)	¥4,000	弓場 芳治 様 (通信・昭 29)	¥4,000
西山 昌 様 (通信・昭 27)	¥4,000	由利 宏二 様 (通信・昭 29)	¥4,000
林 晃 様 (通信・昭 27)	¥4,000		
増尾 興 様 (通信・昭 27)	¥4,000		
森 直一 様 (通信・昭 27)	¥4,000		
山下 一美 様 (通信・昭 27)	¥4,000		
黒岡 清司 様 (電気・昭 28 旧)	¥4,000		
桜田 晴住 様 (電気・昭 28 旧)	¥4,000		
白木 勇 様 (電気・昭 28 旧)	¥4,000		
西川 功一 様 (電気・昭 28 旧)	¥4,000		
藤井 克彦 様 (電気・昭 28 旧)	¥4,000		
松原 信吉 様 (電気・昭 28 旧)	¥4,000		
的崎 亨 様 (電気・昭 28 旧)	¥4,000		
宮中 宏 様 (電気・昭 28 旧)	¥4,000		
味村 重臣 様 (通信・昭 28 旧)	¥4,000		
岩本 邦宣 様 (通信・昭 28 旧)	¥4,000		
立川清兵衛 様 (通信・昭 28 旧)	¥4,000		
平尾 道夫 様 (通信・昭 28 旧)	¥4,000		
松岡 順三 様 (通信・昭 28 旧)	¥4,000		
藪納 丈夫 様 (通信・昭 28 旧)	¥4,000		
大矢知俊雄 様 (電気・昭 28 新)	¥4,000		
北田 幹夫 様 (電気・昭 28 新)	¥4,000		
久米 敏之 様 (電気・昭 28 新)	¥4,000		
笹川 久史 様 (電気・昭 28 新)	¥4,000		
高西 直哉 様 (電気・昭 28 新)	¥4,000		

平成15年度 講演会・総会・懇親会



塩澤俊之先生 ご講演
「電磁波の人体への影響とその定量的評価について」



藤岡弘先生 ご講演
「LSIテスティング 昨日・今日・明日」



総会 風景



懇親会のひとこま

見学会



三洋電機(株) ソーラーアークにて

平成15年度 卒業祝賀・謝恩会



会長 祝辞



会場入口風景



楠本賞、工学賞、工学賞次点 受賞者表彰



祝賀・謝恩会のひとこま



景品抽選会



卒業生代表 領家弘典君 挨拶

濬電会 会則

会 則

第1条 本会は濬電会と称する。

第2条 本会は事務局を大阪大学大学院工学研究科電気系内に置く。

第3条 本会は会員の親睦を図り、学術の発展および科学技術に関する知識の啓発に寄与することを目的とし、そのため適宜必要な事業を行う。

第4条 本会の会員はつきのとおりとする。

(1) 正会員

イ. 大阪大学工学部、工学研究科および情報科学研究科ならびにその前身である学校の電気系卒業生。

ロ. 大阪大学工学部および工学研究科の電気系教官。

ハ. 大阪大学工学部電気系教官主査のもとで学位を得た者で、本会に入会を希望する者。

二. 特に本会に縁故があり、役員会の承認を得た者。

(2) 特別会員

正会員以外で大阪大学工学部電気系の教授、助教授および講師であった者ならびに特にこの会に縁故のある者。

(3) 学生会員

大阪大学工学部、工学研究科および情報科学研究科の電気系学生

(4) 賛助会員

本会の活動を援助する法人または個人

第5条 本会に次の役員、委員を置く。

会長1名

副会長、幹事、クラス委員

第6条 会長は総会の議を経て選出する。副会長、幹事については会長が指名し、総会で承認を得る。クラス委員については学科別卒業年度別に選出する。

第7条 会長は本会の会務を総括し、本会を代表する。副会長は会長を補佐する。

第8条 会長、副会長、幹事は役員会を組織し、会務を処理する。クラス委員はクラスを代表し、本会に関する重要事項の相談にあずかる。

第9条 役員会の推薦により、本会に顧問を置くことができる。

第10条 役員の任期は2年とする。ただし、重任はさまたげない。

第11条 定期総会は年1回開催する。臨時総会は必要に応じて開催する。定期総会では事業報告、会計報告および役員改選その他の議事を行う。

第12条 本会の事業年度、会計年度は毎年6月1日に始まり、翌年5月31日に終る。

第13条 正会員は別に定めた規定により、会費を毎年7月末日までに納入しなければならない。

第14条 本会は必要に応じて支部を置くことができる。

第15条 本会則の変更は総会の議を経て行う。

細 則

・会費は年額4,000円とする。

(平成7年度より実施)

・大学学部卒業時から50年を経過した会員は、会費の納入を要しない。(平成15年度より実施)

編集後記

会報濬電No. 25をお届け致します。大阪大学濬電会は会員数7,800名を超える大所帯の同窓会です。本会報も、住所が分からぬ方等を除いて約6,600名の会員の皆様にお届けしております。既に引退された方、社会の中核でご活躍の方々、また、就職されて間もない方々等、様々な会員の皆様に、母校の動きや同窓生の活躍の現状を生き生きとお伝えするべく紙面の充実に努めております。変化の激しい世の中で、自らの行く先を定めるためには、信念を持って進むことに加えて、周りの情勢を虚心に眺め、いろいろな人の意見に耳を傾けることが大事であると

思われます。立場を離れた率直な意見交換を行える場として、同窓会は重要な役割を果たします。本会報を通して濬電会の様々な活動をお知りいただき、濬電会により一層の親しみを感じていただければ幸いに存じます。

本会報を編集するにあたり、ご多忙の中、多くの方々から貴重な原稿を頂戴致しました。また、種々の情報をタイムリーにご提供いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(編集幹事：松本正行、片山光浩)

濬電会会費納入のお願い

濬電会の財政状況は、諸般の事情により非常に厳しい状況にあります。本会の活動は全て会員各位からの会費に依存しております。本会の活動をより活発にするために、何卒、平成16年度会費（4,000円）の早期納入（できれば6月末日までに）にご協力賜りますようお願いする次第であります。卒業年度の新しい会員各位の納入率が低くなっています。卒業して間もない方々も、是非ご協力のほどお願い申し上げます。

なお、会費納入の便宜を図るため、銀行口座からの会費の自動振込制度およびコンビニエンスストアでの会費納入システム（平成12年10月から導入）も採用しておりますので、是非ご利用ください。また、自動振込の銀行口座を変更ご希望の場合は、濬電会事務局までご一報くだされば、折り返し口座変更手続きに必要な預金口座振替依頼書をご送付いたします。

なお、学部卒業年が昭和29年以前の方の会費は免除になっておりますので、納入の必要はございません。

濬電会会計幹事

発行 濬電会

〒565-0871 吹田市山田丘2-1
大阪大学大学院工学研究科電気系内
電話：06-6879-7789 (ダイヤルイン)
ファックス：06-6879-7774
電子メール：reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp